

第 3 章

精神障害者を対象とした調査

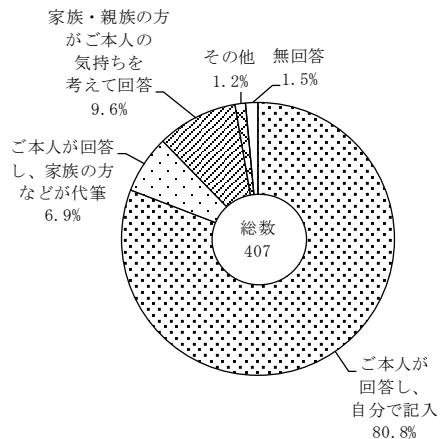
1. 本人について

(1) 調査票の回答者

問1 この調査に回答されているのはどなたですか。(1つに○)

「ご本人が回答し、自分で記入」が80.8%と最も多く、次いで「家族・親族の方がご本人の気持ちを考えて回答」が9.6%、「ご本人が回答し、家族の方などが代筆」が6.9%となっています。

【問1 調査票の回答者】



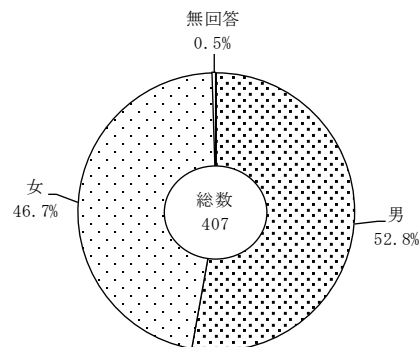
(2) 性別・年齢

問2 あなたの性別に○をつけ、年齢を記入してください。

①性別

「男」は52.8%、「女」は46.7%となっています。

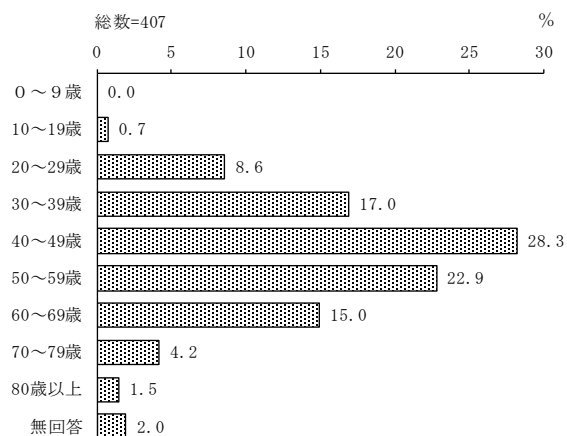
【問2① 性別】



②年齢

「40～49歳」が28.3%と最も多く、次いで「50～59歳」が22.9%、「30～39歳」が17.0%、「60～69歳」が15.0%となっています。

【問2② 年齢】

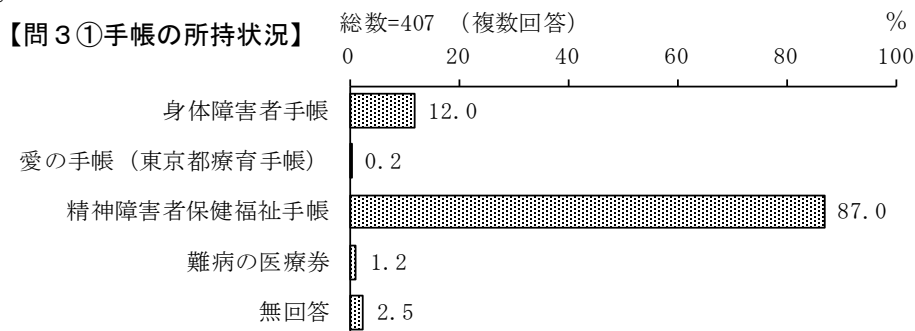


(3) 手帳の所持状況

問3 あなたのお持ちの手帳に○をつけ、その障害の程度を記入してください。申請中のものがあれば、【申請中】に○をつけてください。

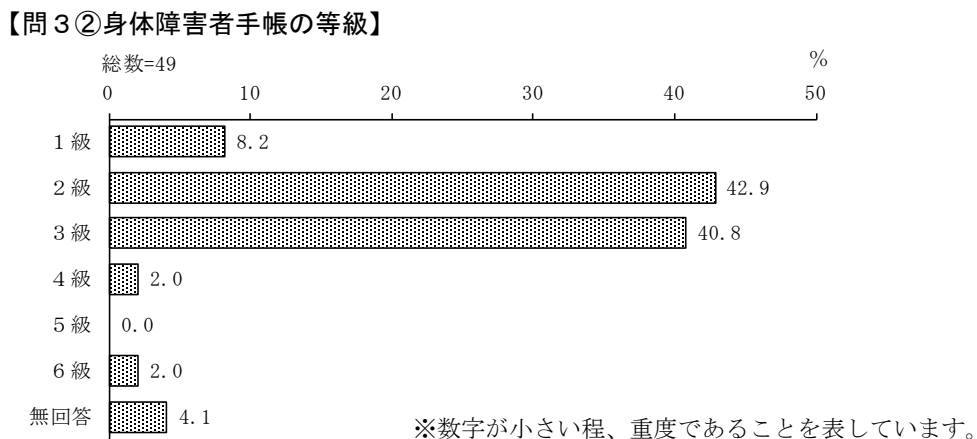
①手帳の所持状況

「精神障害者保健福祉手帳」が87.0%と最も多く、次いで「身体障害者手帳」が12.0%となっています。



②身体障害者手帳の等級

「2級」が42.9%と最も多く、次いで「3級」が40.8%、「1級」が8.2%となっています。

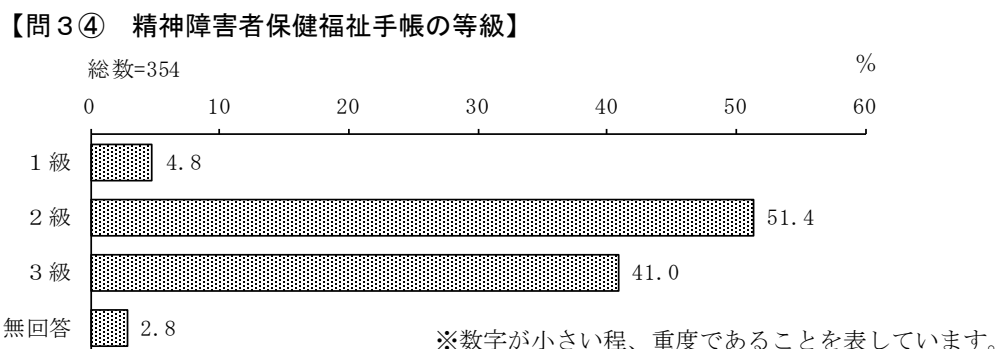


③愛の手帳（東京都療育手帳）の程度

対象者は1人で、無回答でした。

④精神障害者保健福祉手帳の等級

「2級」が51.4%と最も多く、次いで「3級」が41.0%、「1級」が4.8%となっています。



⑤申請中の手帳

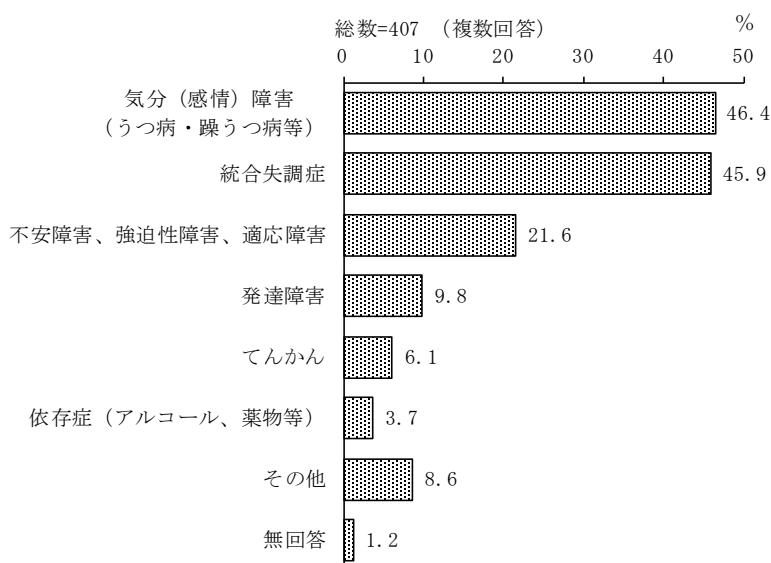
対象者は2人で、回答はいずれも「身体障害者手帳」でした。

(4) 障害の部位、症状

問4 あなたの障害の部位、症状について、次のうちからお選びください。(あてはまるものすべてに○)

「気分(感情)障害(うつ病・躁うつ病等)」が46.4%と最も多く、次いで「統合失調症」が45.9%、「不安障害、強迫性障害、適応障害」が21.6%、「発達障害」が9.8%、「てんかん」が6.1%、「てんかん」が6.1%となっています。

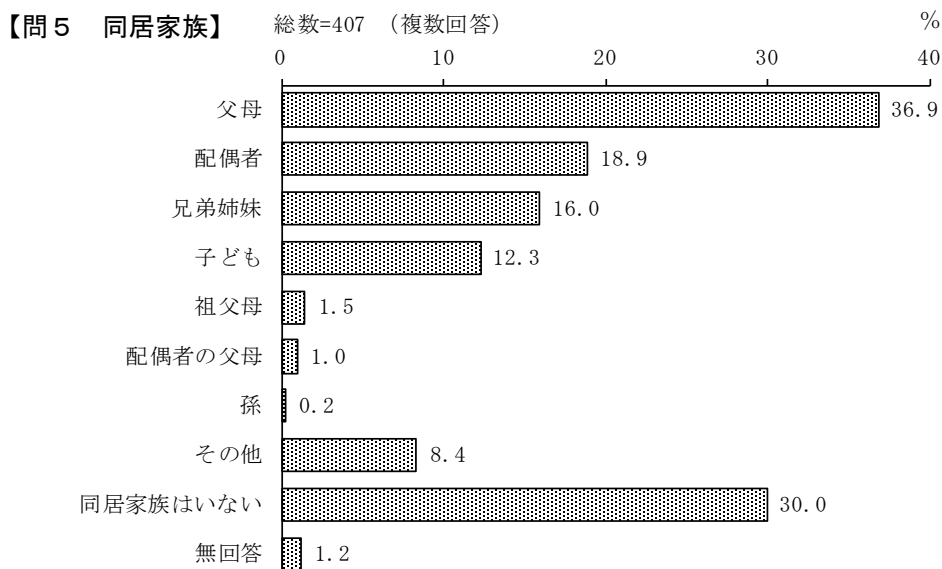
【問4 障害の部位、症状】



(5) 同居家族

問5 あなたは現在どなたと一緒に暮らしていますか。(あてはまるものすべてに○)

「父母」が36.9%と最も多く、次いで「同居家族はいない」が30.0%、「配偶者」が18.9%、「兄弟姉妹」が16.0%、「子ども」が12.3%となっています。



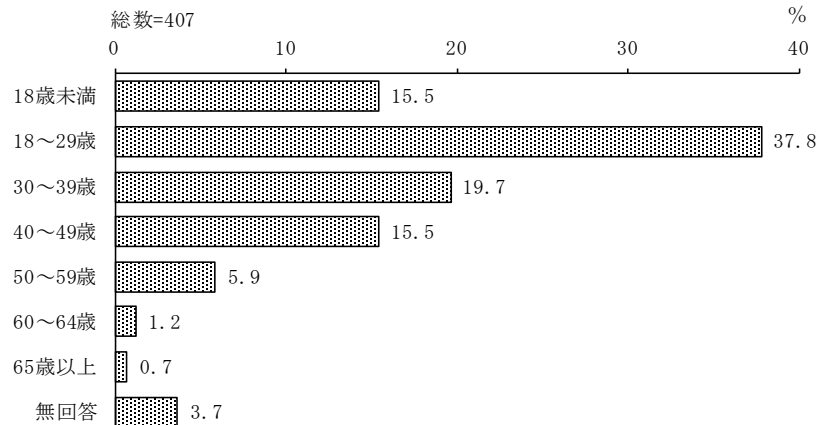
2. 通院や入院について

(1) 初めて医療機関を受診した年齢

問6 あなたが、初めて精神疾患で医療機関を受診したのは何歳ごろですか。

「18～29歳」が37.8%と最も多く、次いで「30～39歳」が19.7%、「18歳未満」と「40～49歳」がそれぞれ15.5%、「50～59歳」が5.9%となっています。

【問6A 初めて医療機関を受診した年齢】



「18～29歳」という回答の割合は概ねどの疾患でも多くなっています。また「18歳未満」という回答は、発達障害で約4割いる結果となっています。

【問6B 初めて医療機関を受診した年齢（疾患名別）】

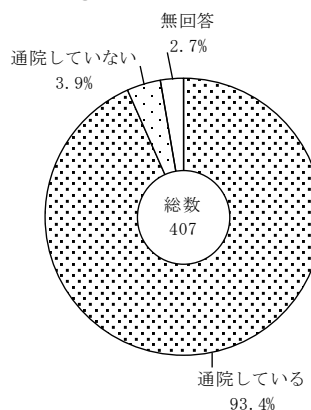
疾患名	全体	年齢							
		18歳未満	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	無回答
全体	407	63	154	80	63	24	5	3	15
	100.0	15.5	37.8	19.7	15.5	5.9	1.2	0.7	3.7
統合失調症	187	35	88	35	18	3	2	1	5
	100.0	18.7	47.1	18.7	9.6	1.6	1.1	0.5	2.7
気分（感情）障害 （うつ病・躁うつ病等）	189	15	59	46	45	15	-	2	7
	100.0	7.9	31.2	24.3	23.8	7.9	-	1.1	3.7
不安障害、強迫性障害、 適応障害	88	14	30	21	13	3	2	1	4
	100.0	15.9	34.1	23.9	14.8	3.4	2.3	1.1	4.5
てんかん	25	9	9	3	1	2	-	-	1
	100.0	36.0	36.0	12.0	4.0	8.0	-	-	4.0
依存症（アルコール、 薬物等）	15	2	5	1	4	2	-	-	1
	100.0	13.3	33.3	6.7	26.7	13.3	-	-	6.7
発達障害	40	17	16	4	2	-	-	-	1
	100.0	42.5	40.0	10.0	5.0	-	-	-	2.5
その他	35	3	13	5	5	5	1	1	2
	100.0	8.6	37.1	14.3	14.3	14.3	2.9	2.9	5.7
無回答	5	1	-	1	1	-	-	-	2
	100.0	20.0	-	20.0	20.0	-	-	-	40.0

(2) 通院状況

問7-① あなたは、現在、精神疾患で通院していますか。(1つに○)

「通院している」が93.4%、「通院していない」が3.9%となっています。

【問7-① 通院状況】

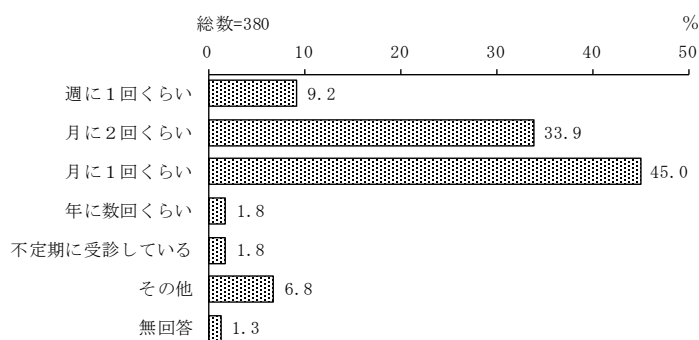


(3) 受診の頻度

問7-② 問7-①で「通院している」と答えた方にお聞きします。どのくらいの頻度で受診していますか。(1つに○)

「月に1回くらい」が45.0%と最も多く、次いで「月に2回くらい」が33.9%、「週に1回くらい」が9.2%となっています。

【問7-② 受診の頻度】

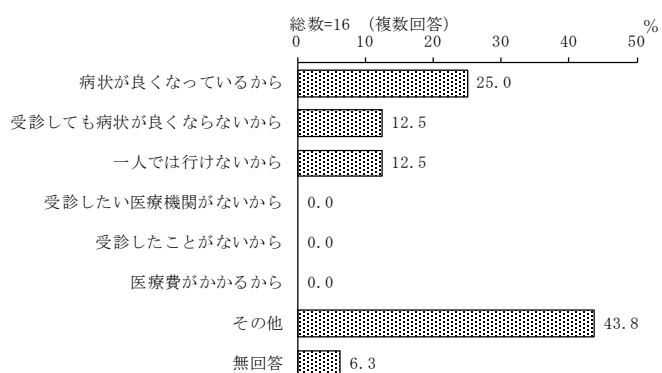


(4) 受診していない理由

問7-③ 問7-①で「通院していない」と答えた方にお聞きします。受診していないのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

「病状が良くなっているから」が25.0%と最も多く、次いで「受診しても病状が良ならないから」と「一人では行けないから」がそれぞれ12.5%となっています。「その他」では、「入院中」などの回答がありました。

【問7-③ 受診していない理由】

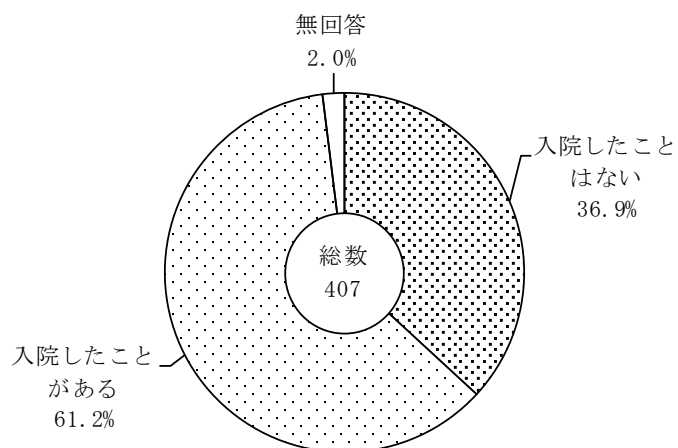


(5) 入院歴

問8-① 全員の方にお聞きします。精神疾患で今までに入院したことはありますか。
(1つに○)

「入院したことがある」が61.2%、「入院したことはない」は36.9%となっています。

【問8-① 入院歴】

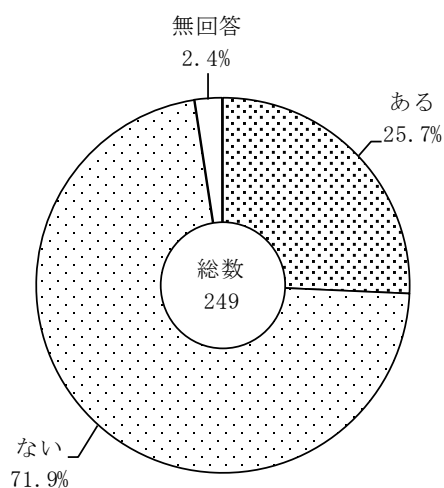


(6) 過去1年以内の入院

問8-② 問8-①で「入院したことがある」と答えた方にお聞きします。この1年以内に精神疾患で入院したことはありますか。(1つに○)

「ない」が71.9%、「ある」が25.7%となっています。

【問8-② 過去1年以内の入院】

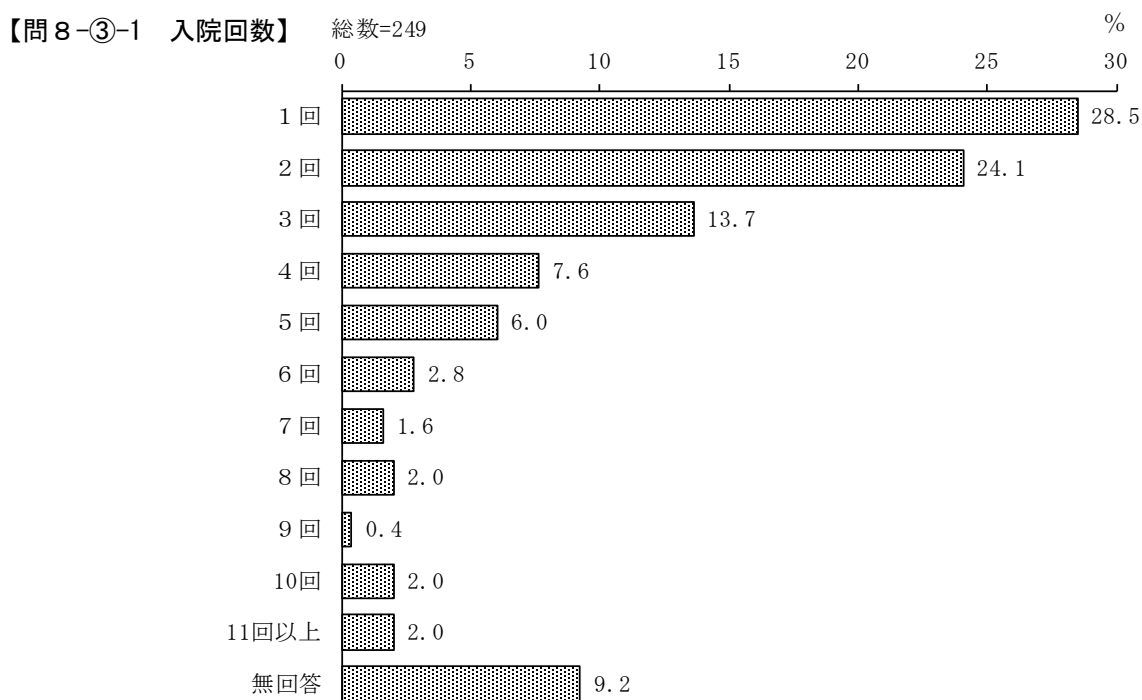


(7) 入院回数・入院期間

問8-③ 問8-①で「入院したことがある」と答えた方にお聞きます。これまでに何回くらい入院しましたか。また、これまでの入院期間を合計するとどのくらいですか。

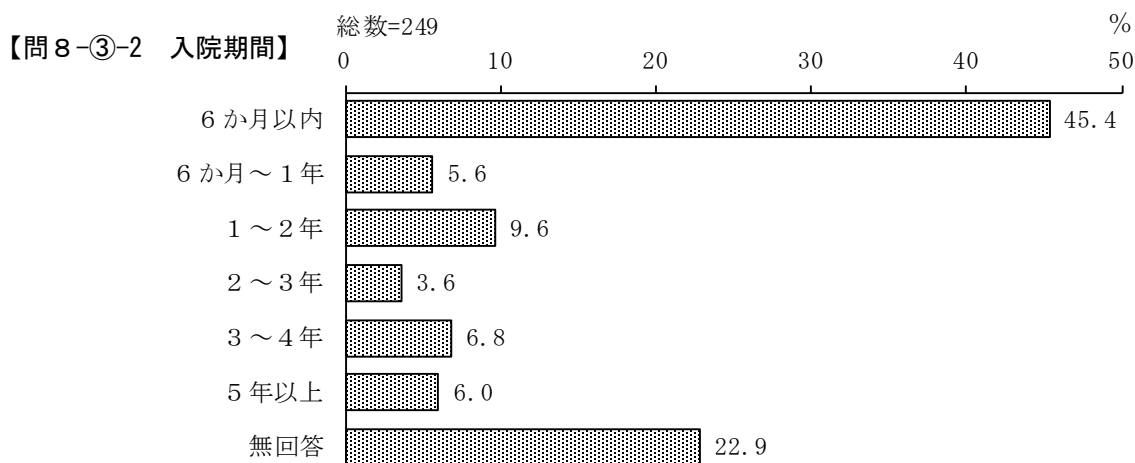
①入院回数

「1回」が28.5%と最も多く、次いで「2回」が24.1%、「3回」が13.7%、「4回」が7.6%、「5回」が6.0%となっています。



②入院期間

「6か月以内」が45.4%と最も多く、次いで「1～2年」が9.6%、「3～4年」が6.8%、「5年以上」が6.0%となっています。

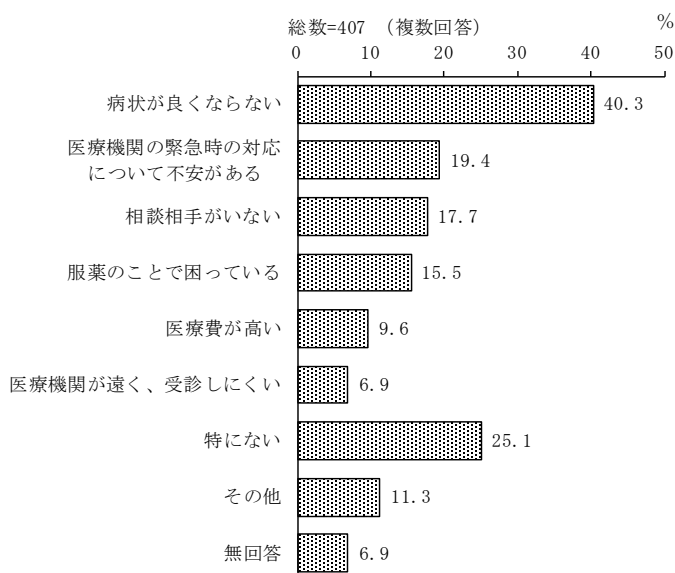


(8) 医療について困っていること

問9 全員の方にお聞きします。精神疾患の医療について困っていることはありますか。(特にあてはまるものを3つまで○。()内は具体的にお書きください)

「病状が良くならない」が40.3%と最も多く、次いで「医療機関の緊急時の対応について不安がある」が19.4%、「相談相手がいない」が17.7%、「服薬のことで困っている」が15.5%、「医療費が高い」が9.6%となっています。「特にない」は25.1%でした。「その他」では、「経済的な負担が大きい」、「周囲の理解がない」などの回答がありました。

【問9A 医療について困っていること】



「医療機関の緊急時の対応について不安がある」、「相談相手がいない」という回答の割合は不安障害、強迫性障害、適応障害でやや多くなっています。

【問9B 医療について困っていること (疾患名別)】

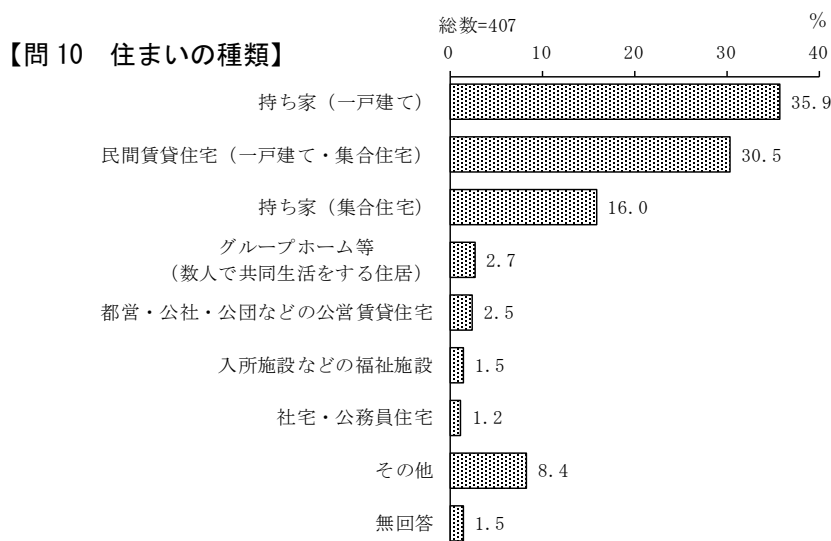
	全体	服薬のことで困っている	受診しにくい、医療機関が遠く、	病状が良くならない	医療機関の緊急時の対応について不安がある	医療費が高い	相談相手がいない	特にない	その他	無回答
上段：実数										
下段：割合										
全体	407 100.0	63 15.5	28 6.9	164 40.3	79 19.4	39 9.6	72 17.7	102 25.1	46 11.3	28 6.9
疾患名	統合失調症	187 100.0	29 15.5	14 7.5	71 38.0	36 19.3	18 9.6	30 16.0	51 27.3	17 9.1
	気分(感情)障害 (うつ病・躁うつ病等)	189 100.0	24 12.7	14 7.4	84 44.4	40 21.2	19 10.1	39 20.6	32 16.9	24 12.7
	不安障害、強迫性障害、 適応障害	88 100.0	19 21.6	7 8.0	43 48.9	23 26.1	2 2.3	25 28.4	10 11.4	15 17.0
	てんかん	25 100.0	3 12.0	2 8.0	8 32.0	5 20.0	2 8.0	4 16.0	8 32.0	4 16.0
	依存症(アルコール、 薬物等)	15 100.0	4 26.7	2 13.3	9 60.0	3 20.0	-	2 13.3	2 13.3	2 13.3
	発達障害	40 100.0	7 17.5	4 10.0	17 42.5	9 22.5	3 7.5	7 17.5	10 25.0	8 20.0
	その他	35 100.0	8 22.9	-	17 48.6	14 40.0	3 8.6	11 31.4	5 14.3	3 8.6
	無回答	5 100.0	-	-	1 20.0	-	-	1 20.0	2 40.0	-

3. 住居について

(1) 住まいの種類

問 10 あなたのお住まいについて、あてはまるものを次のうちからお選びください。
(1つに○)

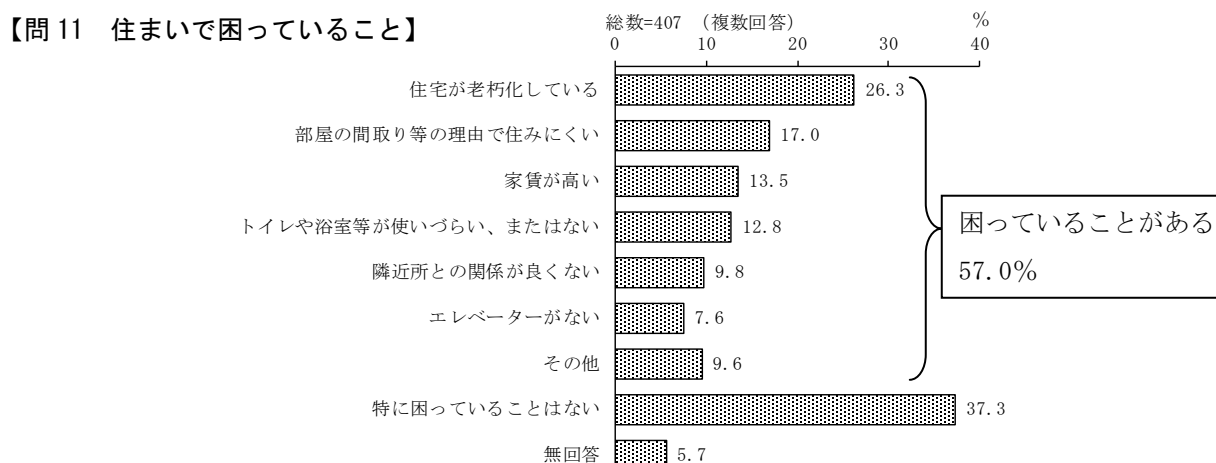
「持ち家（一戸建て）」が 35.9%と最も多く、次いで「民間賃貸住宅（一戸建て・集合住宅）」が 30.5%、「持ち家（集合住宅）」が 16.0%となっています。



(2) 住まいで困っていること

問 11 あなたは現在のお住まいで困っていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

困っていることがある方の中では、「住宅が老朽化している」が 26.3%と最も多く、次いで「部屋の間取り等の理由で住みにくい」が 17.0%、「家賃が高い」が 13.5%、「トイレや浴室等が使いづらい、またはない」が 12.8%、「隣近所との関係が良くない」が 9.8%となっています。



4. 収入・年金について

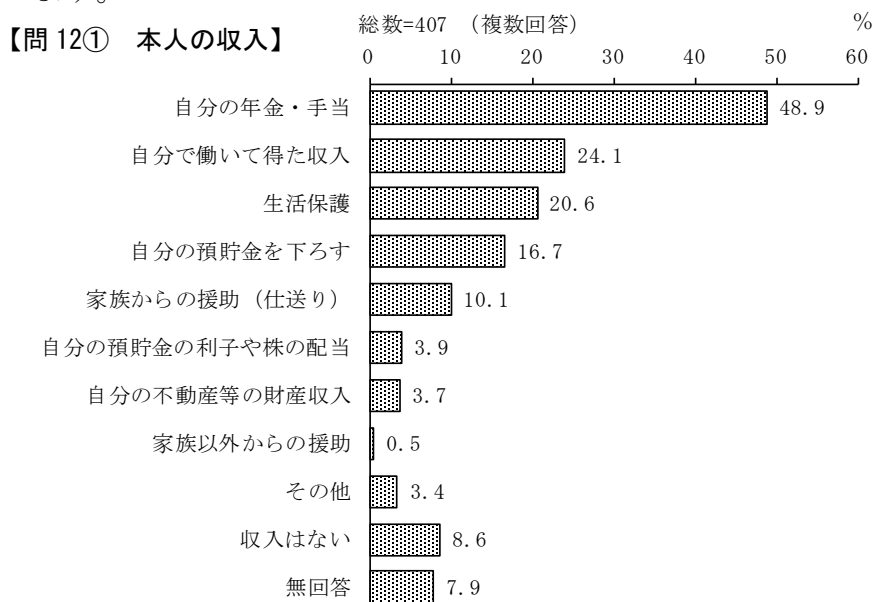
(1) 本人の収入・世帯全体の収入

問 12 あなたの世帯はどのような収入をもとに暮らしていますか。(あてはまるものすべてに○)

単身の方は、あなた自身の収入についてのみ、回答してください。

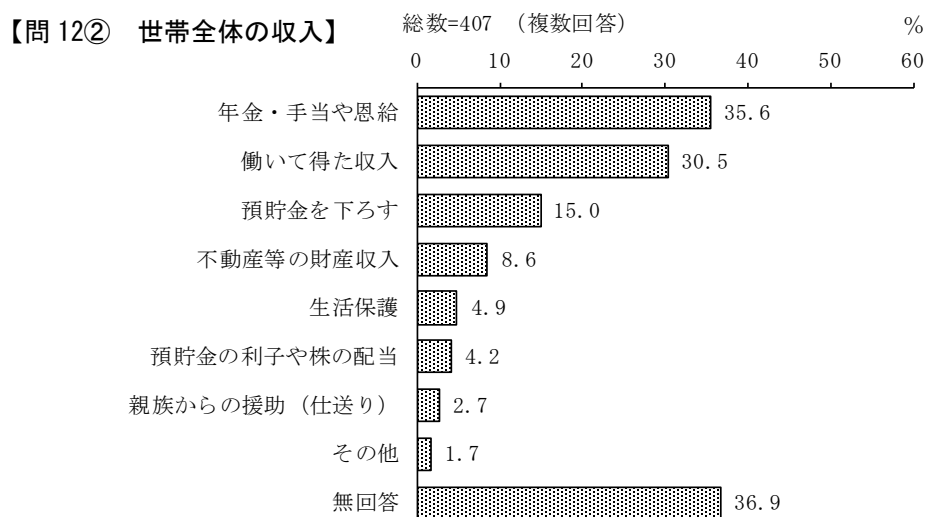
①本人の収入

「自分の年金・手当」が48.9%と最も多く、次いで「自分で働いて得た収入」が24.1%、「生活保護」が20.6%、「自分の預貯金を下ろす」が16.7%、「家族からの援助(仕送り)」が10.1%となっています。



②世帯全体の収入

「年金・手当や恩給」が35.6%と最も多く、次いで「働いて得た収入」が30.5%、「預貯金を下ろす」が15.0%、「不動産等の財産収入」が8.6%となっています。

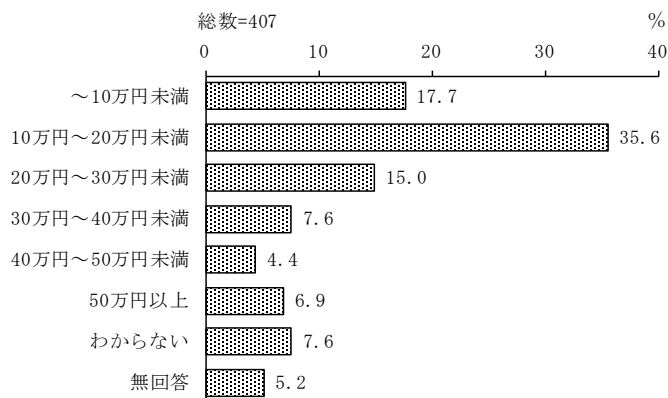


(2) 世帯の収入額

問 13 年金・手当・仕送りなどをすべて合わせて、あなたの世帯の1か月の収入はおよそいくらですか。(1つに○)

「10万円～20万円未満」が35.6%と最も多く、次いで「～10万円未満」が17.7%、「20万円～30万円未満」が15.0%、「30万円～40万円未満」が7.6%となっています。

【問 13 世帯の収入額】

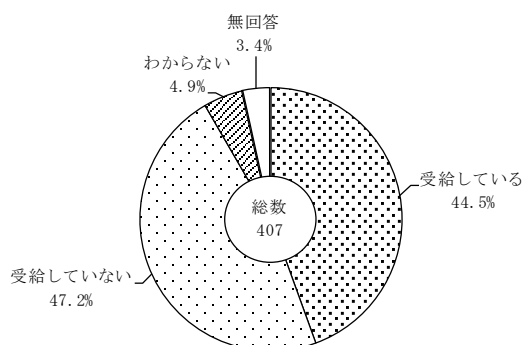


(3) 障害年金の受給状況

問 14-① あなたは障害基礎年金や障害厚生年金を受給していますか。(1つに○)

「受給していない」が47.2%、「受給している」が44.5%となっています。

【問 14-① 障害年金の受給状況】

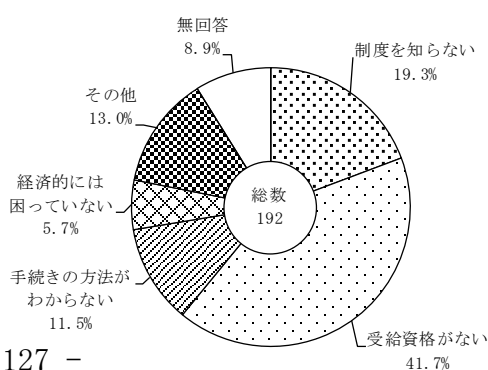


(4) 障害年金を受給していない理由

問 14-② 問 14-①で「受給していない」と答えた方にお聞きします。障害基礎年金等を受給していない理由についてお答えください。(1つに○)

「受給資格がない」が41.7%と最も多く、次いで「制度を知らない」が19.3%、「手続きの方法がわからない」が11.5%となっています。

【問 14-② 障害年金を受給していない理由】



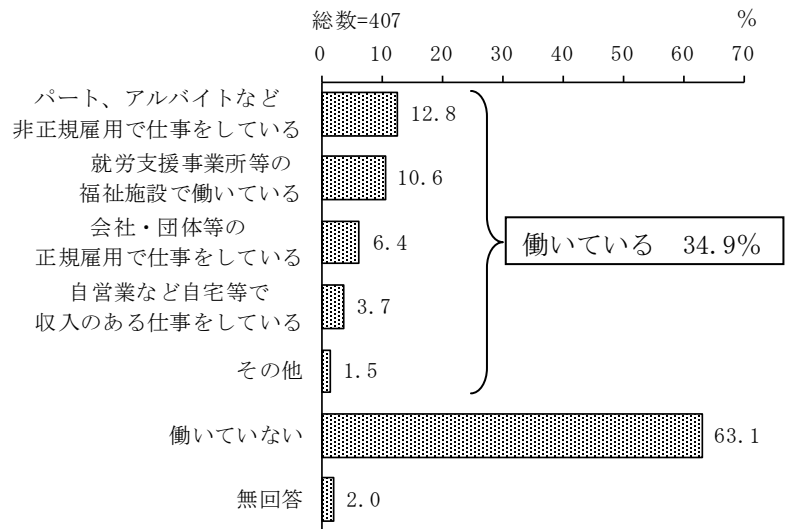
5. 就労の状況について

(1) 就労状況

問 15-① あなたは、現在仕事をしていますか。(1つに○)

「パート、アルバイトなど非正規雇用で仕事をしている」が12.8%と最も多く、次いで「就労支援事業所等の福祉施設で働いている」が10.6%となっています。「働いている」という回答は合わせて34.9%、「働いていない」という回答は63.1%でした。

【問 15-①A 就労状況】



「パート、アルバイトなど非正規雇用で仕事をしている」、「就労支援事業所等の福祉施設で働いている」という回答の割合は30～49歳でやや多くなっています。また、就労期(18～64歳)に限ってみると、働いている人は39.6%、働いていない人は58.7%となっています。

【問 15-①B 就労状況 (年齢別)】

	全体	正会社 規雇用・団 体等の 仕事をして いる	非パート、 正規雇用で アルバイトな ど	自営業など 自宅等で	福祉施設 就労支援事 業所等	その他	働いて いない	無 回答	
									上段：実数
全体	407	26	52	15	43	6	257	8	
	100.0	6.4	12.8	3.7	10.6	1.5	63.1	2.0	
年齢別	18歳未満	2	-	-	-	-	2	-	
		100.0	-	-	-	-	100.0	-	
	18～29歳	36	5	6	-	4	-	21	-
		100.0	13.9	16.7	-	11.1	-	58.3	-
	30～39歳	69	5	13	2	13	1	34	1
		100.0	7.2	18.8	2.9	18.8	1.4	49.3	1.4
	40～49歳	115	6	21	3	20	3	58	4
	100.0	5.2	18.3	2.6	17.4	2.6	50.4	3.5	
50～64歳	126	8	12	8	5	2	90	1	
	100.0	6.3	9.5	6.3	4.0	1.6	71.4	0.8	
65歳以上	51	2	-	2	1	-	45	1	
	100.0	3.9	-	3.9	2.0	-	88.2	2.0	
無回答	8	-	-	-	-	-	7	1	
	100.0	-	-	-	-	-	87.5	12.5	

「働いている」という回答（「働いていない」と無回答以外）の割合を集計すると、発達障害、てんかん、気分（感情）障害（うつ病・躁うつ病等）でやや高い傾向となっています。

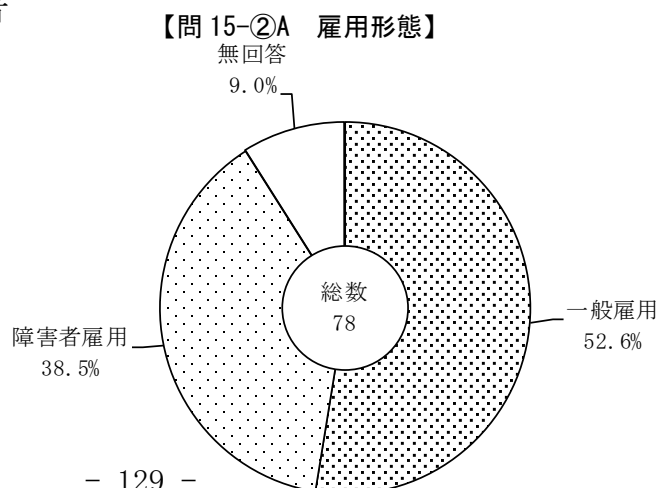
【問 15-①C 就労状況（疾患名別）】

上段：実数 下段：割合		全体	正 規 社 会 雇 用 で 仕 事 を し て い る	非 正 規 雇 用 で 仕 事 を し て い る	自 営 業 な ど 自 宅 等 で 仕 事 を し て い る	福 就 社 労 支 援 施 設 で 働 い て い る	そ の 他	働 い て い な い	無 回 答
全体		407 100.0	26 6.4	52 12.8	15 3.7	43 10.6	6 1.5	257 63.1	8 2.0
疾患名	統合失調症	187 100.0	3 1.6	22 11.8	5 2.7	22 11.8	3 1.6	127 67.9	5 2.7
	気分（感情）障害 （うつ病・躁うつ病等）	189 100.0	16 8.5	21 11.1	8 4.2	18 9.5	3 1.6	117 61.9	6 3.2
	不安障害、強迫性障害、 適応障害	88 100.0	1 1.1	3 3.4	3 3.4	9 10.2	1 1.1	70 79.5	1 1.1
	てんかん	25 100.0	4 16.0	5 20.0	-	2 8.0	-	14 56.0	-
	依存症（アルコール、 薬物等）	15 100.0	1 6.7	1 6.7	-	1 6.7	-	12 80.0	-
	発達障害	40 100.0	5 12.5	7 17.5	1 2.5	6 15.0	-	21 52.5	-
	その他	35 100.0	4 11.4	3 8.6	4 11.4	2 5.7	-	22 62.9	-
	無回答	5 100.0	1 20.0	-	-	-	-	4 80.0	-

（２）雇用形態

問 15-② 問 15-①で「1・2」と答えた方（正規雇用または非正規雇用で働いている方）にお聞きします。雇用形態は一般雇用・障害者雇用のどちらですか。
（1つに○）

「一般雇用」が 52.6%、「障害者雇用」が 38.5%となっています。



「一般雇用」という回答の割合は気分（感情）障害（うつ病・躁うつ病等）で多く、「障害者雇用」という回答の割合は発達障害で多くなっています。

【問 15-②B 雇用形態（疾患名別）】

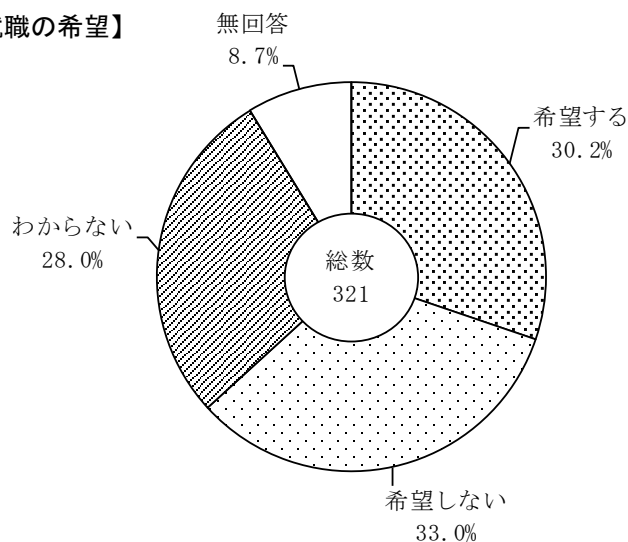
		全体	一般雇用	障害者雇用	無回答
上段：実数 下段：割合					
全体		78 100.0	41 52.6	30 38.5	7 9.0
疾患名	統合失調症	25 100.0	10 40.0	13 52.0	2 8.0
	気分（感情）障害 （うつ病・躁うつ病等）	37 100.0	25 67.6	9 24.3	3 8.1
	不安障害、強迫性障害、 適応障害	4 100.0	3 75.0	-	1 25.0
	てんかん	9 100.0	4 44.4	4 44.4	1 11.1
	依存症（アルコール、 薬物等）	2 100.0	1 50.0	1 50.0	-
	発達障害	12 100.0	2 16.7	9 75.0	1 8.3
	その他	7 100.0	3 42.9	3 42.9	1 14.3
	無回答	1 100.0	-	1 100.0	-

（3）一般企業への就職の希望

問 15-③ 問 15-①で「自営業等、自宅で働いている」、「福祉施設等で働いている」、「働いていない」等と答えた方にお聞きします。あなたは一般企業（非正規雇用を含む）への就職を希望しますか。（1つに○）

「希望しない」が 33.0%、「希望する」が 30.2%となっています。

【問 15-③ 一般企業への就職の希望】



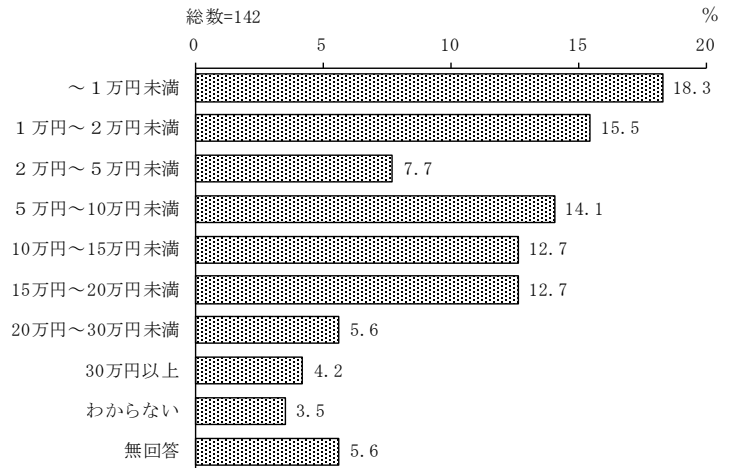
【以下問16、17は、問15-①で「働いている」と答えた方に伺いました】

(4) 1か月あたりの給与額

問16 あなたの1か月あたりの給与（賃金・工賃）はおよそいくらですか。（1つに○）

「～1万円未満」が18.3%と最も多く、次いで「1万円～2万円未満」が15.5%、「5万円～10万円未満」が14.1%、「10万円～15万円未満」と「15万円～20万円未満」がそれぞれ12.7%となっています。

【問16 1か月あたりの給与額】

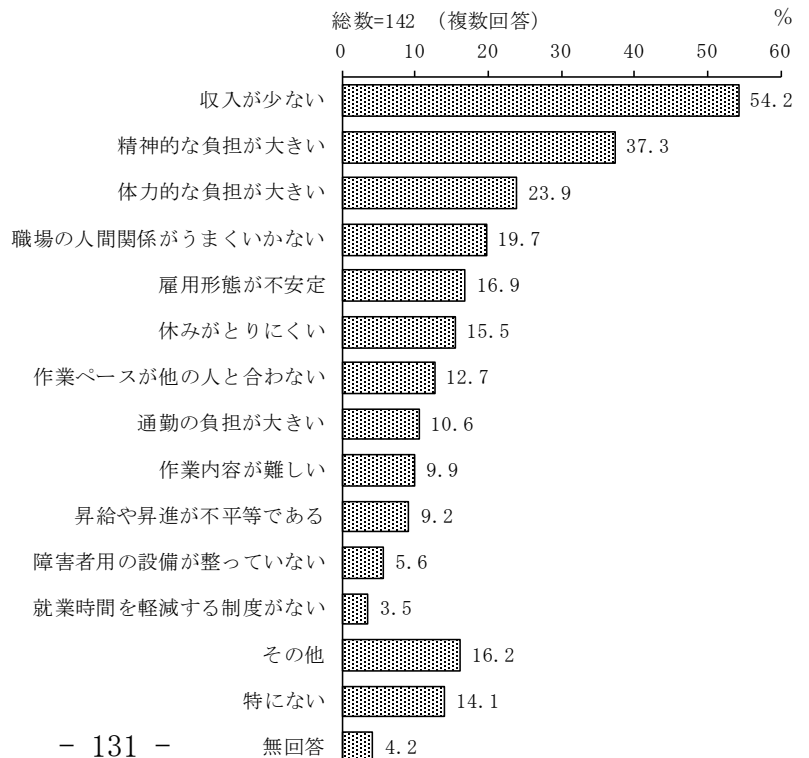


(5) 職場や仕事・作業への不安・不満

問17 あなたが現在働いている職場や仕事・作業に不安や不満はありますか。（あてはまるものすべてに○）

「収入が少ない」が54.2%と最も多く、次いで「精神的な負担が大きい」が37.3%、「体力的な負担が大きい」が23.9%、「職場の人間関係がうまくいかない」が19.7%、「雇用形態が不安定」が16.9%となっています。「その他」では、「雇用期間が限られているので、将来が不安」などの回答がありました。

【問17 職場や仕事・作業への不安・不満】

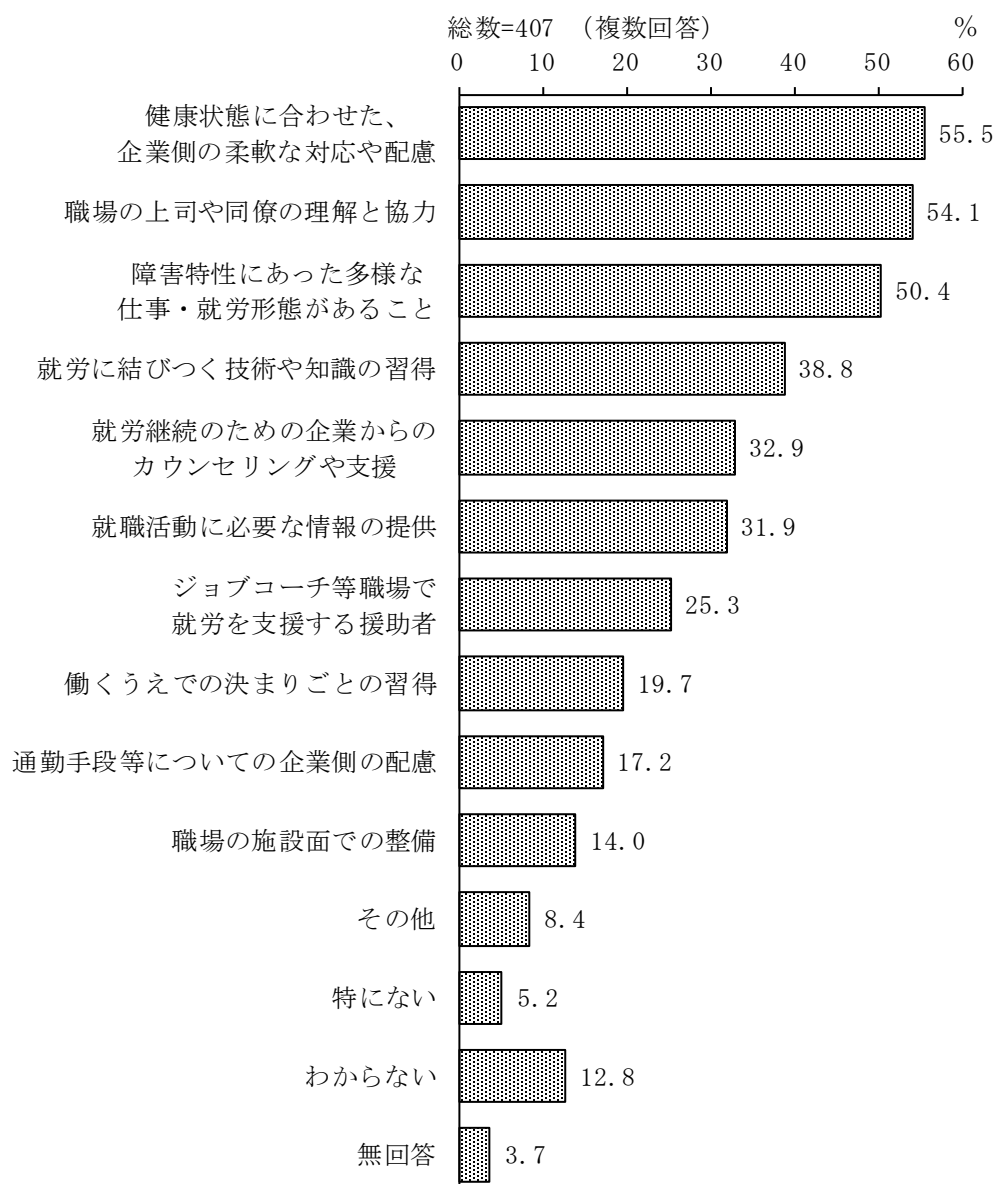


(6) 障害者が働くために大切なこと

問 18 全員の方にお聞きします。障害者が働くためには、どのような支援や環境が整っていることが大切だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「健康状態に合わせた、企業側の柔軟な対応や配慮」が 55.5%と最も多く、次いで「職場の上司や同僚の理解と協力」が 54.1%、「障害特性にあった多様な仕事・就労形態があること」が 50.4%、「就労に結びつく技術や知識の習得」が 38.8%、「就労継続のための企業からのカウンセリングや支援」が 32.9%となっています。

【問 18 障害者が働くために大切なこと】



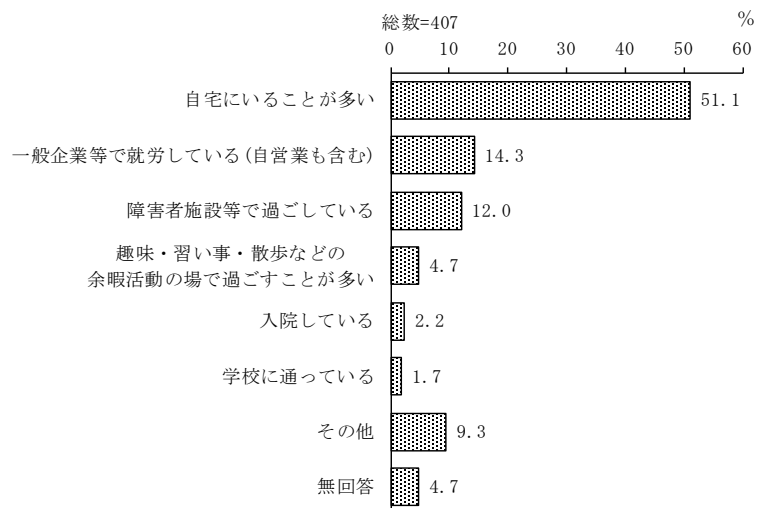
6. 日々の生活について

(1) 日中過ごしている場所

問 19 日中は主にどこで過ごしていますか。(1つに○)

「自宅にすることが多い」が51.1%と最も多く、次いで「一般企業等で就労している(自営業も含む)」が14.3%、「障害者施設等で過ごしている」が12.0%となっています。

【問 19 日中過ごしている場所】

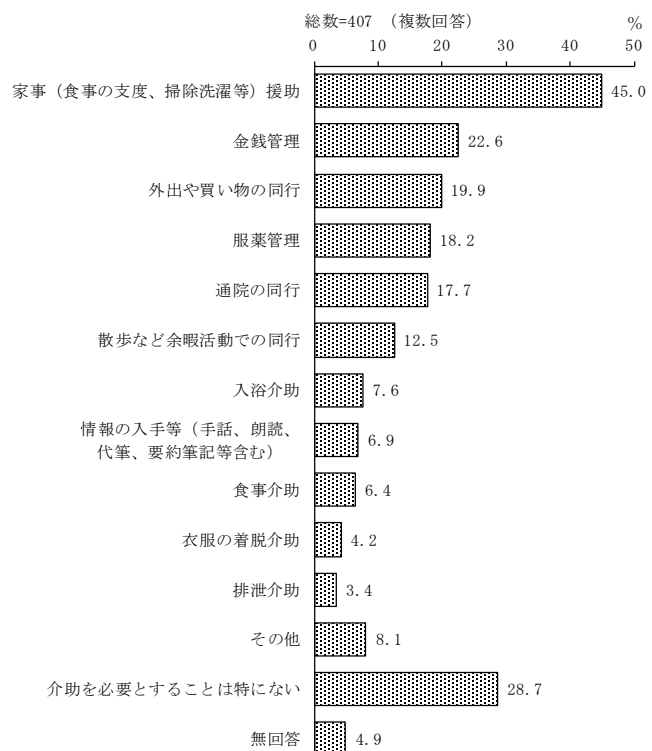


(2) 手助けが必要なこと

問 20 あなたが生活する上で、手助けが必要なことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「家事(食事の支度、掃除洗濯等)援助」が45.0%と最も多く、次いで「金銭管理」が22.6%、「外出や買い物同行」が19.9%、「服薬管理」が18.2%、「通院の同行」が17.7%となっています。

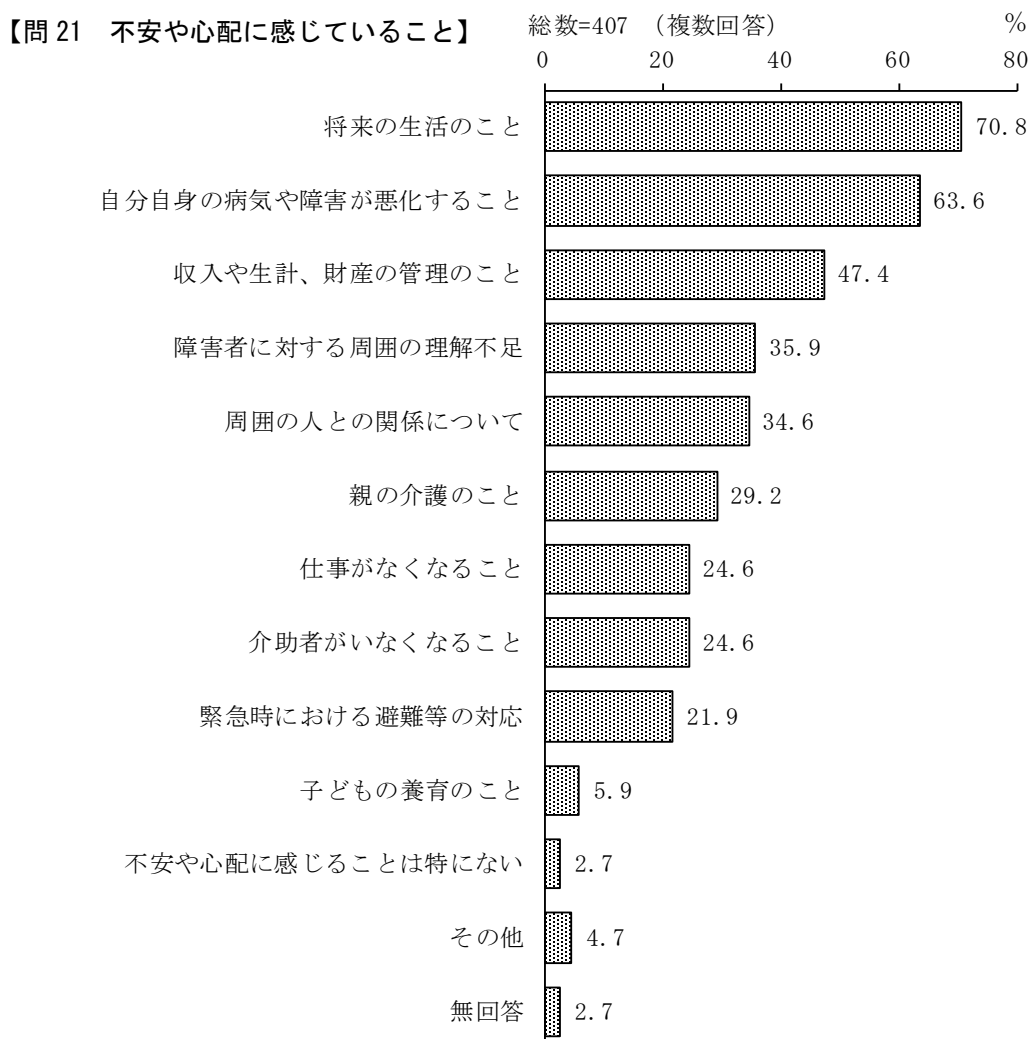
【問 20 手助けが必要なこと】



(3) 不安や心配に感じていること

問 21 現在または将来、不安や心配に感じていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

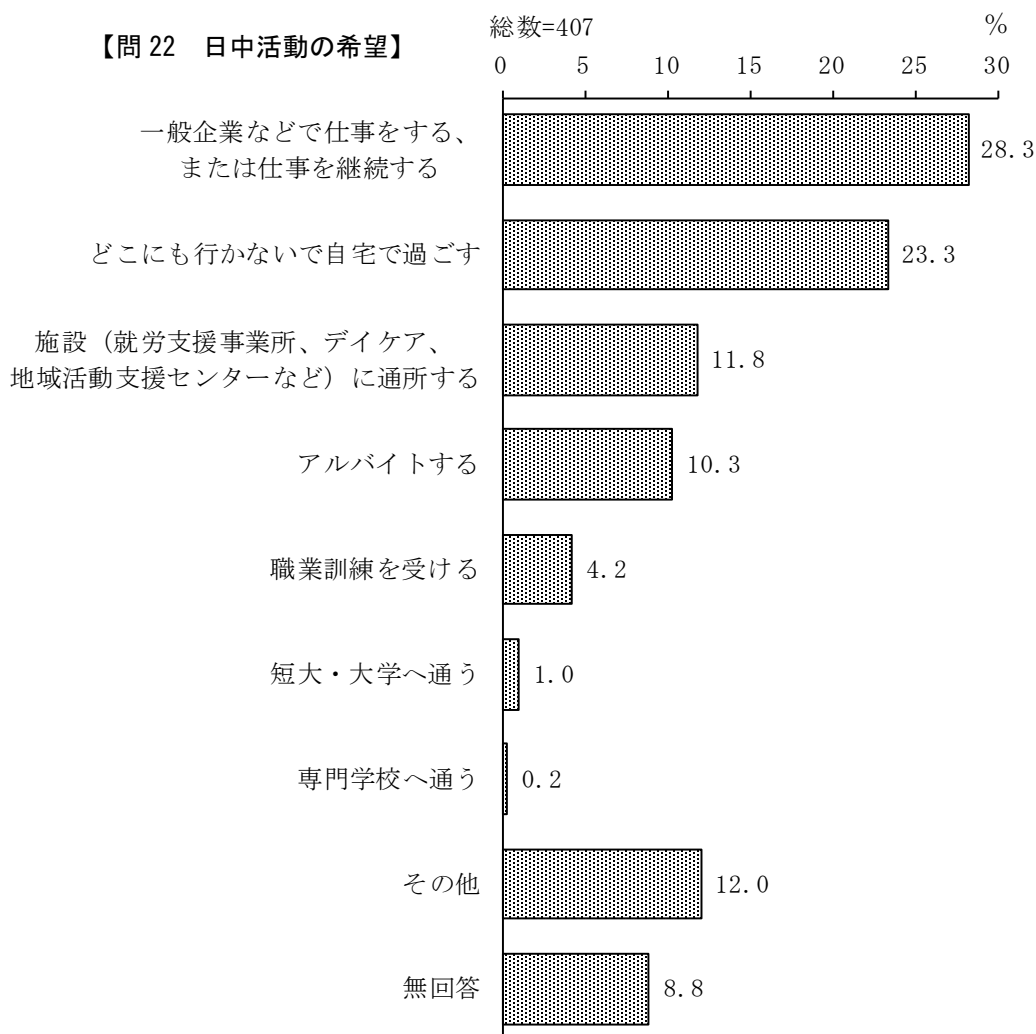
「将来の生活のこと」が70.8%と最も多く、次いで「自分自身の病気や障害が悪化すること」が63.6%、「収入や生計、財産の管理のこと」が47.4%、「障害者に対する周囲の理解不足」が35.9%、「周囲の人との関係について」が34.6%となっています。



(4) 日中活動の希望

問 22 日中活動として、あなたは、今後どのような過ごし方、通所先、就学先等を希望していますか。(1つに○)

「一般企業などで仕事をする、または仕事を継続する」が 28.3%と最も多く、次いで「どこにも行かないで自宅で過ごす」が 23.3%、「施設（就労支援事業所、デイケア、地域活動支援センターなど）に通所する」が 11.8%、「アルバイトする」が 10.3%となっています。「その他」では、「自分にできる仕事をしたい」、「施設に入所したい」などの回答がありました。



(5) 余暇活動への参加希望

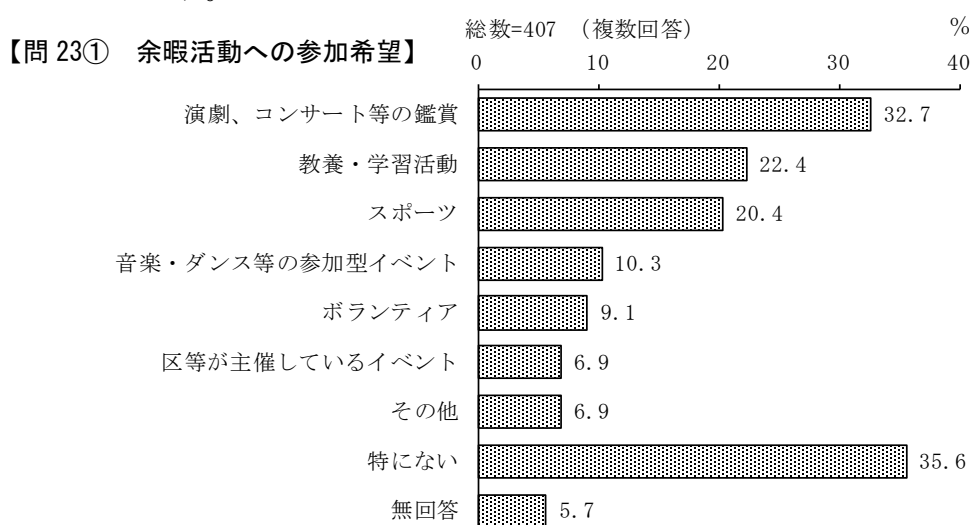
問 23 余暇活動についてお聞きします。今後余暇活動で参加したいと思うものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

* スポーツを選んだ方は () 内にスポーツの種目もお書きください。

* 区等が主催しているイベントを選んだ方は () 内の種類にも○をつけてください。

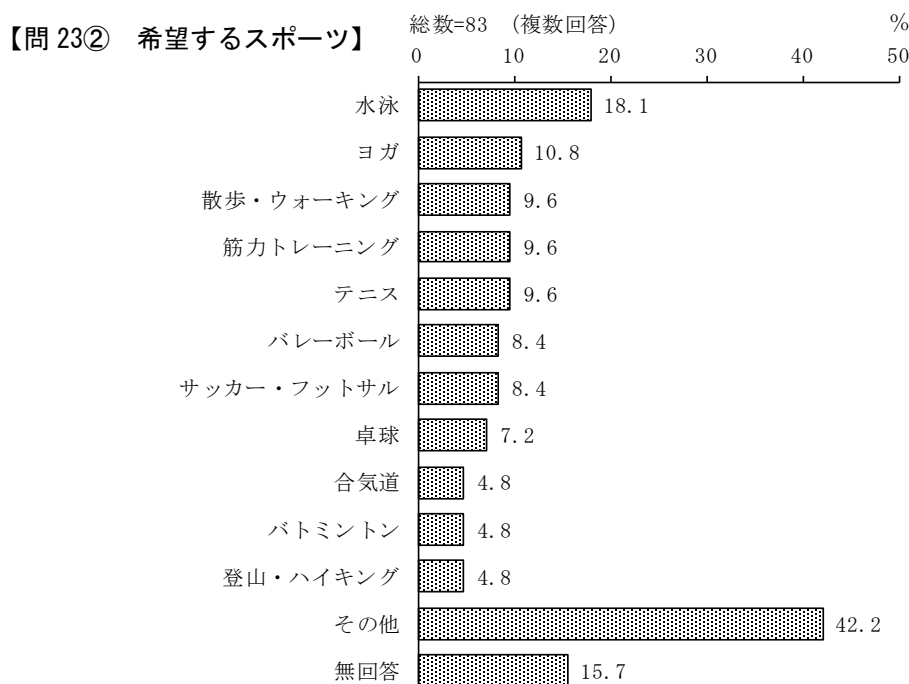
①余暇活動への参加希望

「演劇、コンサート等の鑑賞」が 32.7%と最も多く、次いで「教養・学習活動」が 22.4%、「スポーツ」が 20.4%、「音楽・ダンス等の参加型イベント」が 10.3%、「ボランティア」が 9.1%となっています。



②希望するスポーツ

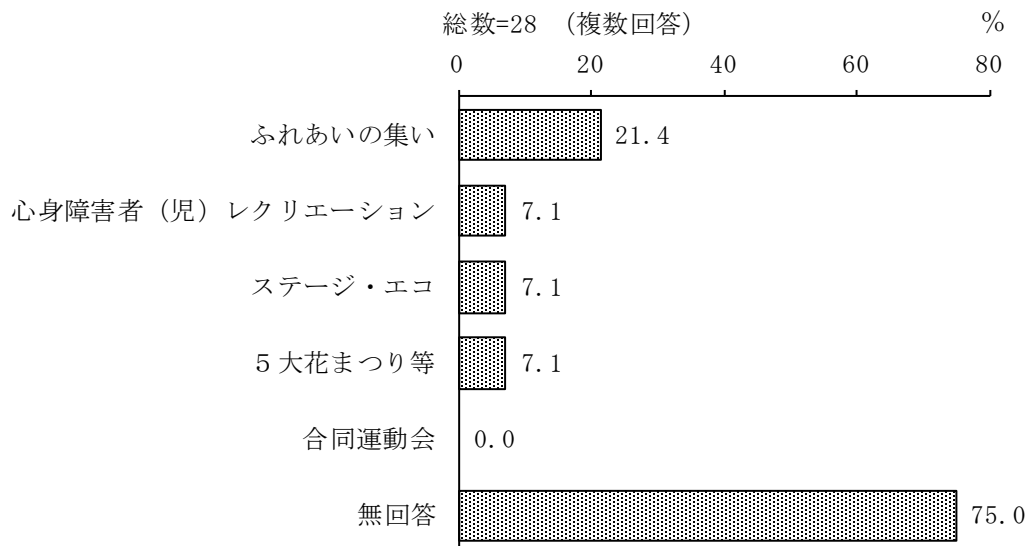
「水泳」が 18.1%と最も多く、次いで「ヨガ」が 10.8%、「散歩・ウォーキング」、「筋力トレーニング」、「テニス」がそれぞれ 9.6%となっています。



③区等が主催しているイベント

「ふれあいの集い」が21.4%と最も多く、次いで「心身障害者（児）レクリエーション」、「ステージ・エコ」、「5大花まつり等」がそれぞれ7.1%となっています。

【問 23③ 区等が主催しているイベント】



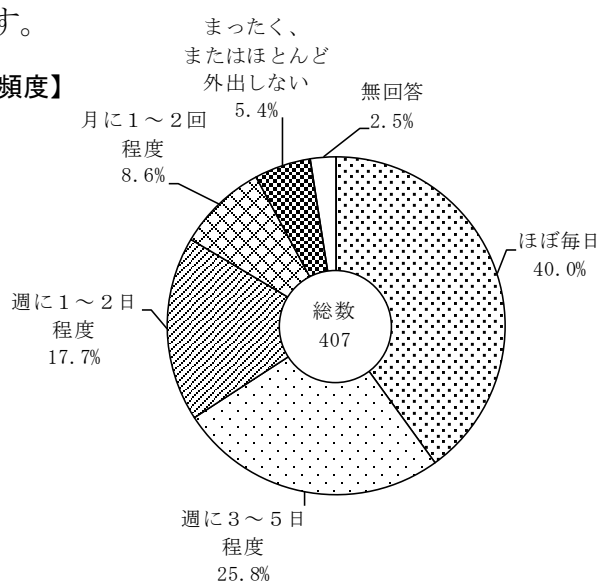
7. 外出・地域環境・交通などについて

(1) 外出の頻度

問 24 日頃あなたはどれくらい外出（通勤、通学、通所、通院等を含む）しますか。
（1つに○）

「ほぼ毎日」が40.0%と最も多く、次いで「週に3～5日程度」が25.8%、「週に1～2日程度」が17.7%、「月に1～2回程度」が8.6%、「まったく、またはほとんど外出しない」が5.4%となっています。

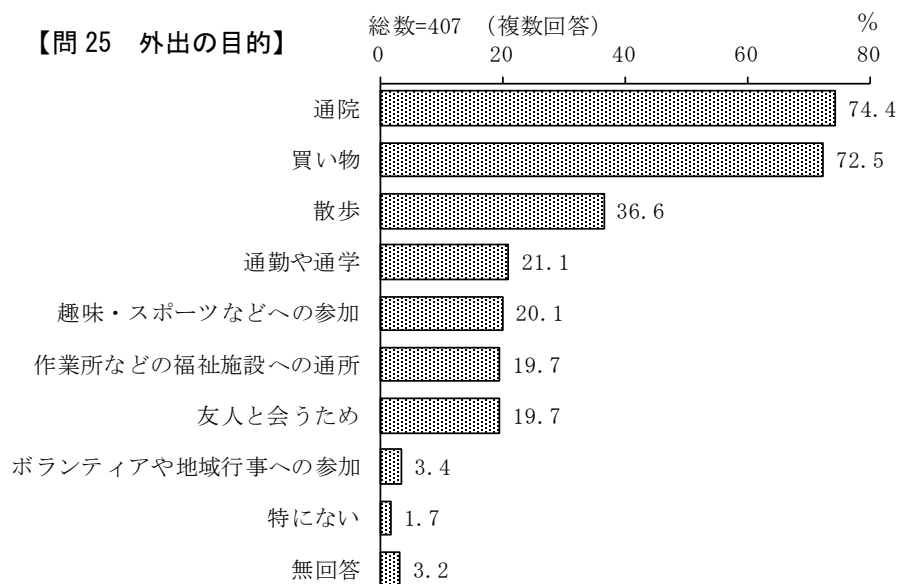
【問 24 外出の頻度】



(2) 外出の目的

問 25 外出の目的にはどのようなものがありますか。（あてはまるものすべてに○）

「通院」が74.4%と最も多く、次いで「買い物」が72.5%、「散歩」が36.6%、「通勤や通学」が21.1%、「趣味・スポーツなどへの参加」が20.1%となっています。

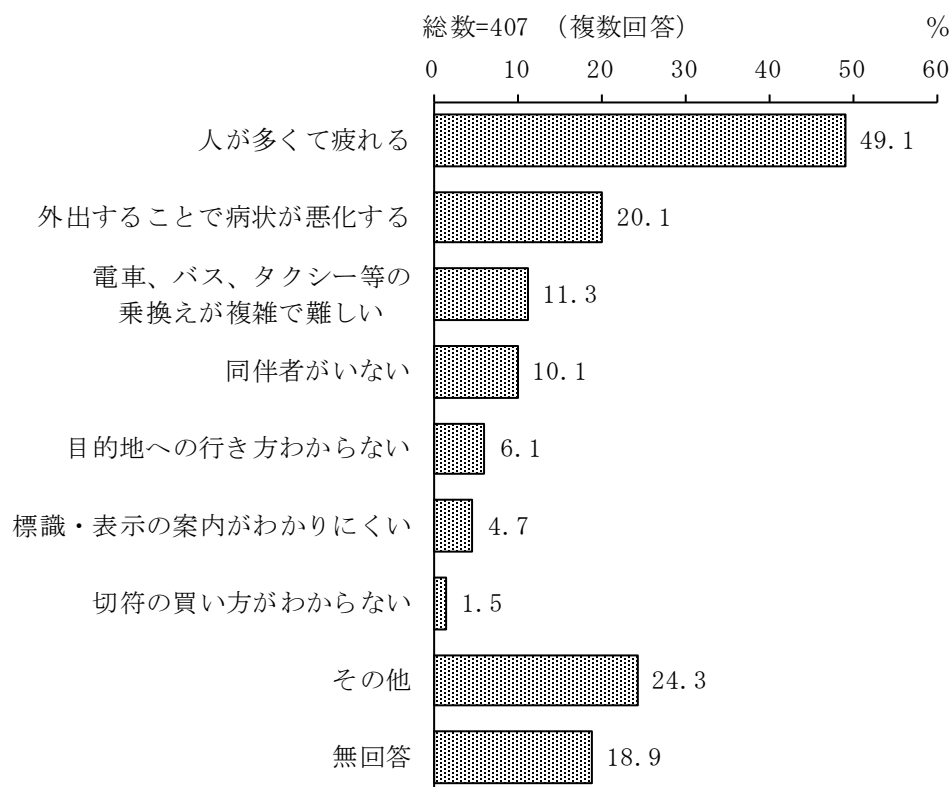


(3) 外出の際に困ること

問 26 外出の際に困ることは何ですか。(特にあてはまるものを3つまで○)

「人が多くて疲れる」が49.1%と最も多く、次いで「外出することで病状が悪化する」が20.1%、「電車、バス、タクシー等の乗換えが複雑で難しい」が11.3%、「同伴者がいない」が10.1%となっています。「その他」では、「一人では外出できない」、「困ることはない」などの回答がありました。

【問 26A 外出の際に困ること】



疾病名別に見た場合の結果は以下のとおりとなっています。

【問 26B 外出の際に困ること（疾病名別）】

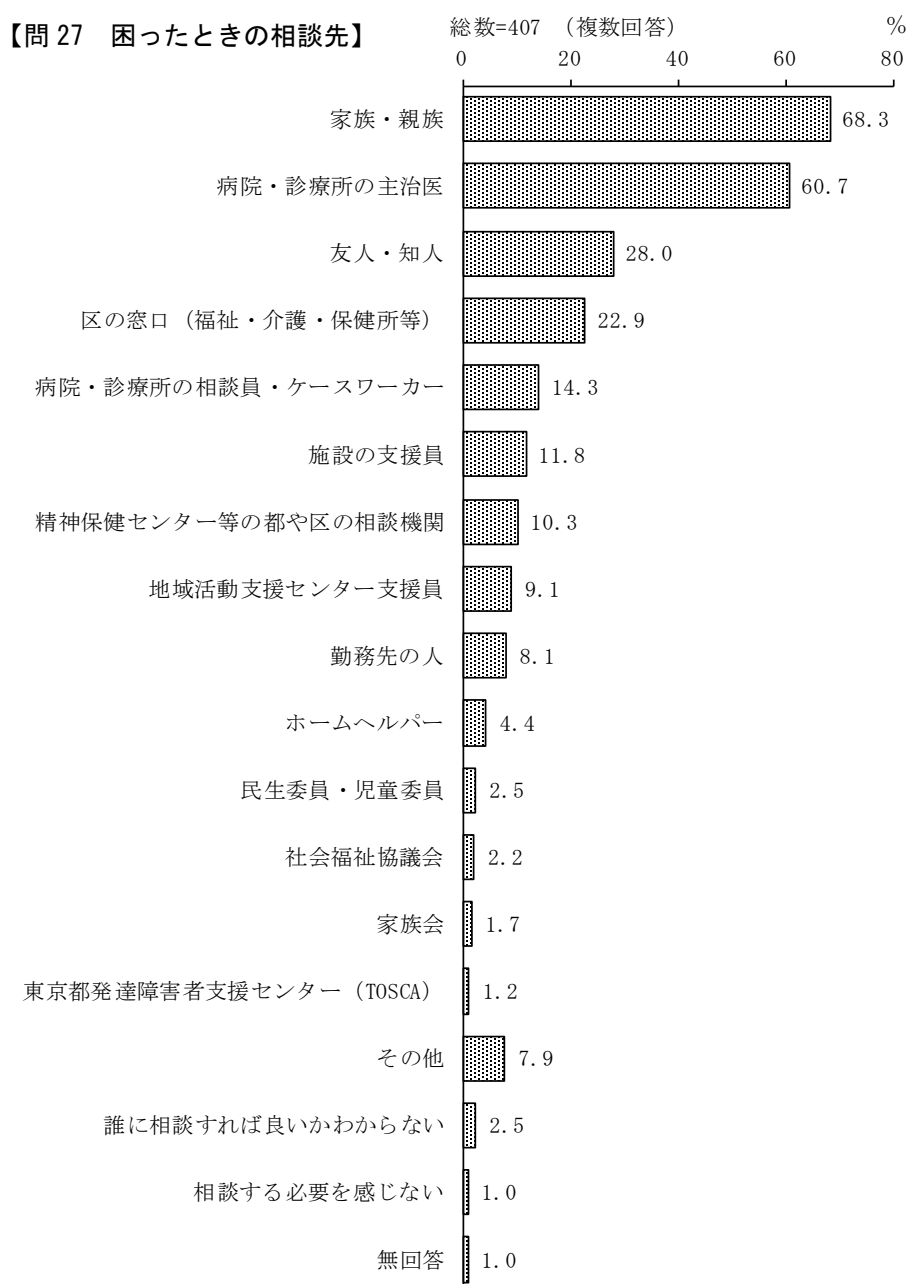
上段：実数 下段：割合		全体	乗換 電車が バス、 タクシー 等の 複雑で 難しい	目的 地への 行き方 が わからない	切符の 買い方 が わからない	標識・ 表示の 案内が わかり にくい	人が 多くて 疲れる	同伴者 がいない	外出 する ことで 病状が 悪化する	その他	無 回答
全体		407 100.0	46 11.3	25 6.1	6 1.5	19 4.7	200 49.1	41 10.1	82 20.1	99 24.3	77 18.9
疾病名	統合失調症	187 100.0	24 12.8	16 8.6	3 1.6	10 5.3	91 48.7	23 12.3	33 17.6	44 23.5	32 17.1
	気分（感情）障害 （うつ病・躁うつ病等）	189 100.0	22 11.6	7 3.7	3 1.6	6 3.2	102 54.0	19 10.1	47 24.9	51 27.0	33 17.5
	不安障害、強迫性障害、 適応障害	88 100.0	10 11.4	1 1.1	2 2.3	4 4.5	55 62.5	10 11.4	28 31.8	18 20.5	14 15.9
	てんかん	25 100.0	-	-	-	-	10 40.0	3 12.0	5 20.0	8 32.0	5 20.0
	依存症（アルコール、 薬物等）	15 100.0	5 33.3	2 13.3	-	1 6.7	6 40.0	2 13.3	5 33.3	1 6.7	5 33.3
	発達障害	40 100.0	6 15.0	2 5.0	-	2 5.0	23 57.5	6 15.0	11 27.5	7 17.5	6 15.0
	その他	35 100.0	4 11.4	2 5.7	-	1 2.9	19 54.3	6 17.1	13 37.1	9 25.7	6 17.1
	無回答	5 100.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	-	-	-	-	1 20.0	3 60.0

8. 相談について

(1) 困ったときの相談先

問 27 あなたが困ったときや悩んだ時の相談先について、次のうちからお選びください。(あてはまるものすべてに○)

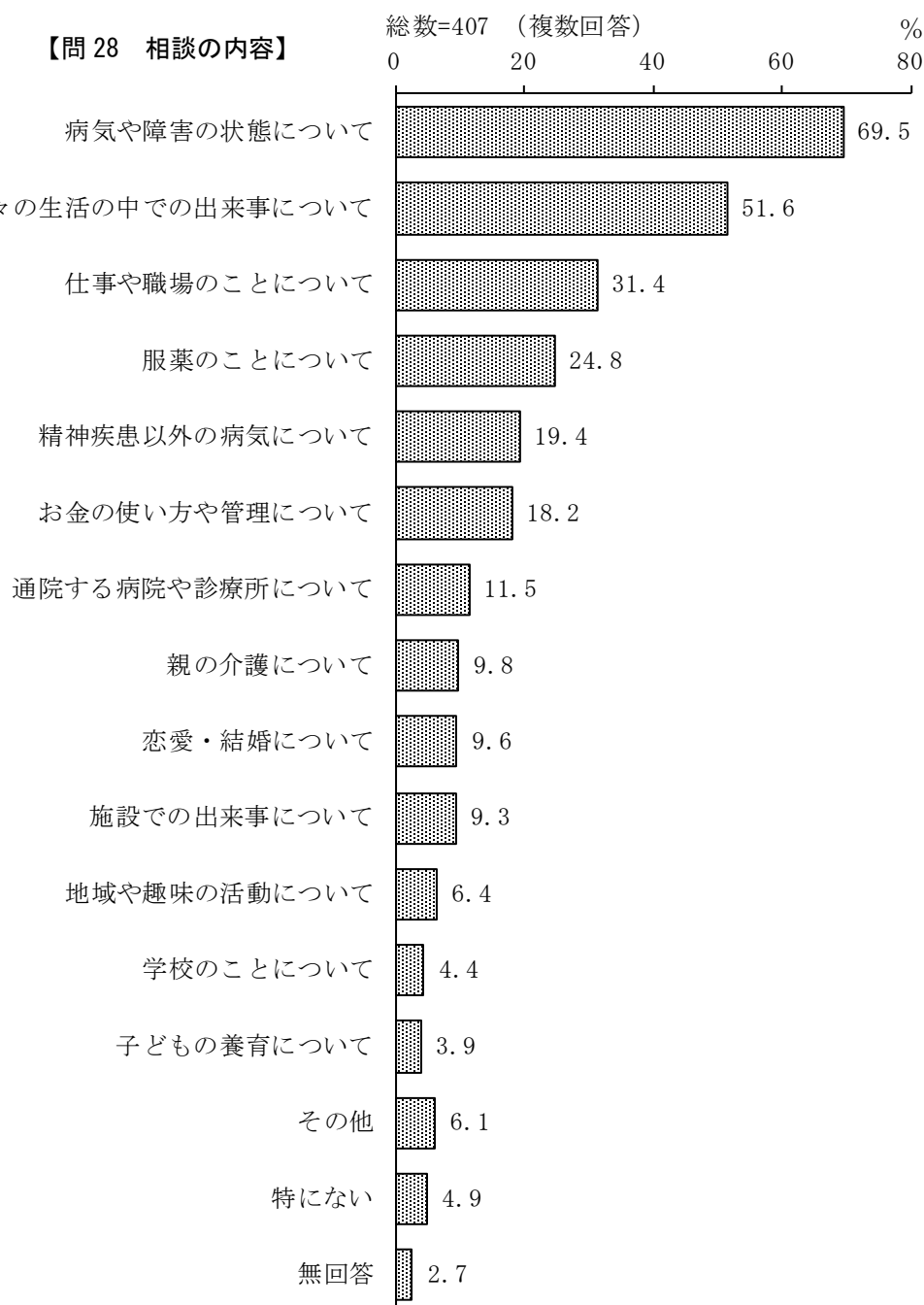
「家族・親族」が 68.3%と最も多く、次いで「病院・診療所の主治医」が 60.7%、「友人・知人」が 28.0%、「区の窓口（福祉・介護・保健所等）」が 22.9%、「病院・診療所の相談員・ケースワーカー」が 14.3%となっています。



(2) 相談の内容

問 28 あなたは、どのようなことについて相談していますか。

「病気や障害の状態について」が69.5%と最も多く、次いで「日々の生活の中での出来事について」が51.6%、「仕事や職場のことについて」が31.4%、「服薬のことについて」が24.8%、「精神疾患以外の病気について」が19.4%となっています。



9. 障害福祉サービス等の利用について

障害者総合支援法及び児童福祉法に基づく、障害福祉サービス等のご利用状況について伺います。

※ サービスの分類については 33 ページをご参照ください。

★現在障害福祉サービス等を利用されている方には**[A]**（問 29～問 30）の設問にお答えいただきました。

★障害福祉サービス等を利用していない方には**[B]**（問 31）へお進み頂きました。

[A] 障害福祉サービス等を利用している方へ

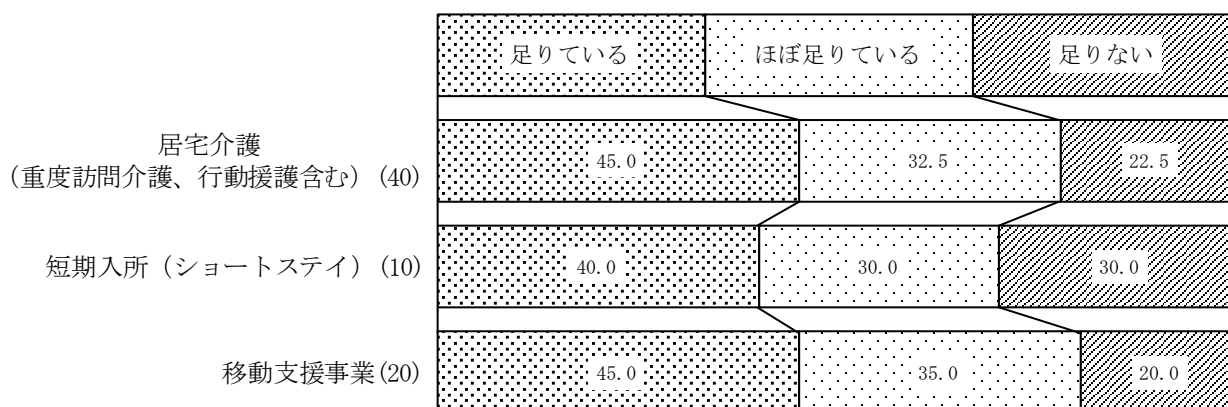
（1）サービス量が足りているか

問 29 現在利用されている障害福祉サービス等の量についてお聞きします。
あてはまるものについてそれぞれ回答を 1つ 選び、○をつけてください。

利用しているという回答の中では、全般に「足りている」、「ほぼ足りている」という回答が多くなっています。「足りない」という回答は、「短期入所（ショートステイ）」が 30.0%、「居宅介護（重度訪問介護、行動援護含む）」が 22.5%、「移動支援事業」が 20.0%となっています。

【問 29 サービス量が足りているか】

単位：%



※ 利用していると回答のあった方だけで集計しています。各項目横の（ ）で記載されている数は回答者数を表しています。

(2) サービス利用の満足度

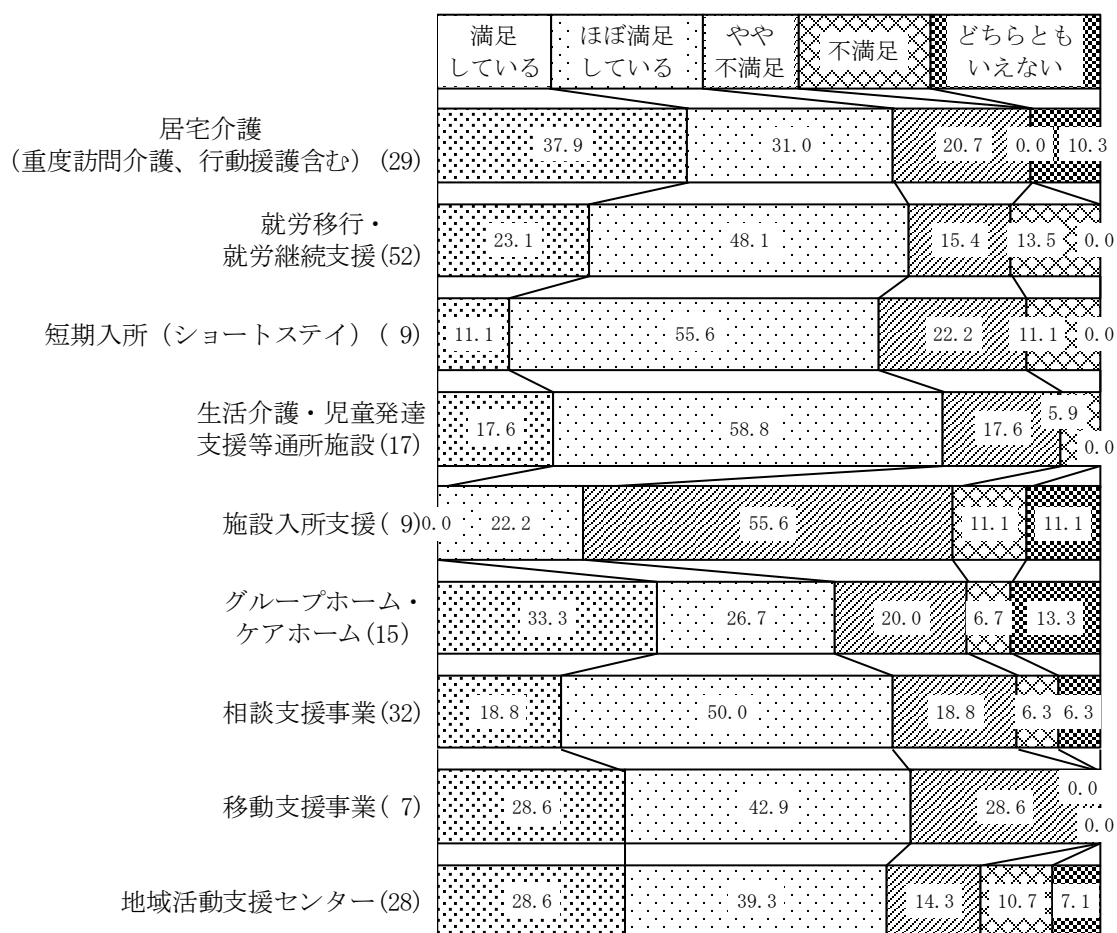
問 30 利用されているサービスの内容についてお聞きします。

あてはまるものについてそれぞれ回答を1つ選び、○をつけてください。

利用しているという回答の中では、全般に「満足している」、「ほぼ満足している」という回答が多くなっていますが、「施設入所支援」では「やや不満足」という回答が多くなっています。

【問 30 サービス利用の満足度】

単位：%



※ 利用していると回答のあった方だけで集計しています。各項目横の () で記載されている数は回答者数を表しています。

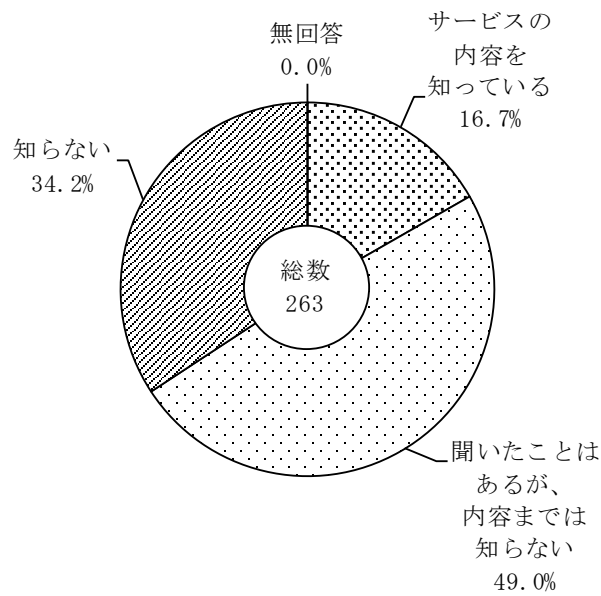
[B]障害福祉サービス等を利用していない方へ

(3) 障害福祉サービス等の認知状況

問 31 障害福祉サービス等があることを知っていますか。(1つに○)

「聞いたことはあるが、内容までは知らない」が49.0%と最も多く、次いで「知らない」が34.2%、「サービスの内容を知っている」が16.7%となっています。

【問 31A 障害福祉サービス等の認知状況】



「知らない」という回答の割合は一人暮らしの方で多くなっています。

【問 31B 障害福祉サービス等の認知状況 (家族構成別)】

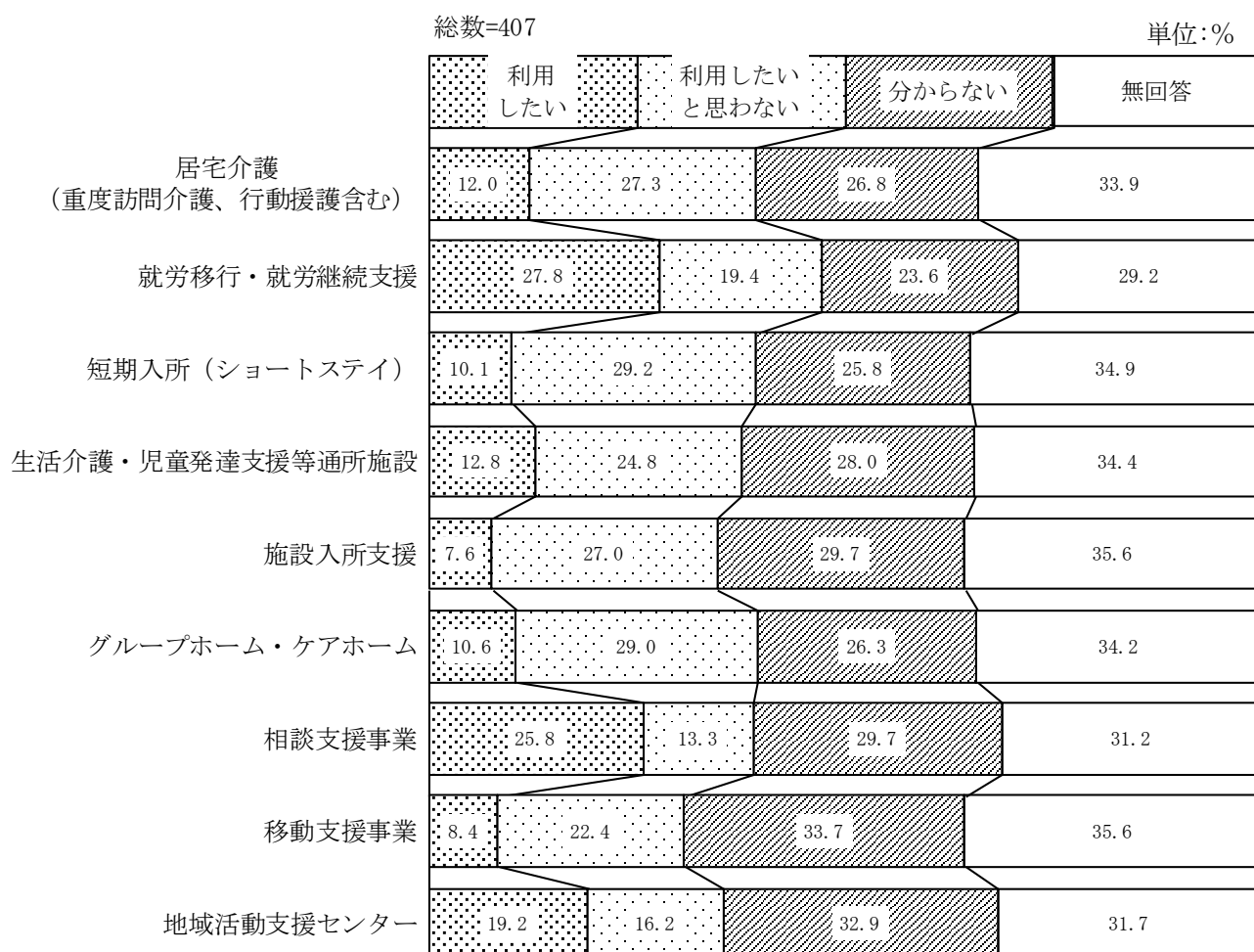
		全体	サービスの内容を知っている	聞いたことはあるが、内容までは知らないが、	知らない	無回答
上段：実数 下段：割合						
全体		263 100.0	44 16.7	129 49.0	90 34.2	-
家族構成	家族と同居	169 100.0	29 17.2	91 53.8	49 29.0	-
	一人暮らし	79 100.0	12 15.2	30 38.0	37 46.8	-
	その他	12 100.0	3 25.0	5 41.7	4 33.3	-
	無回答	3 100.0	-	3 100.0	-	-

(4) サービスの利用希望

問 32 **全員の方にお聞きします。**今後、利用を希望するサービスはありますか。あてはまるものについてそれぞれ回答を1つ選び、○をつけてください。

「利用したい」という回答は、「就労移行・就労継続支援」が 27.8%と最も多く、次いで「相談支援事業」が 25.8%、「地域活動支援センター」が 19.2%、「生活介護・児童発達支援等通所施設」が 12.8%、「居宅介護(重度訪問介護、行動援護含む)」が 12.0%となっています。

【問 32 サービスの利用希望】



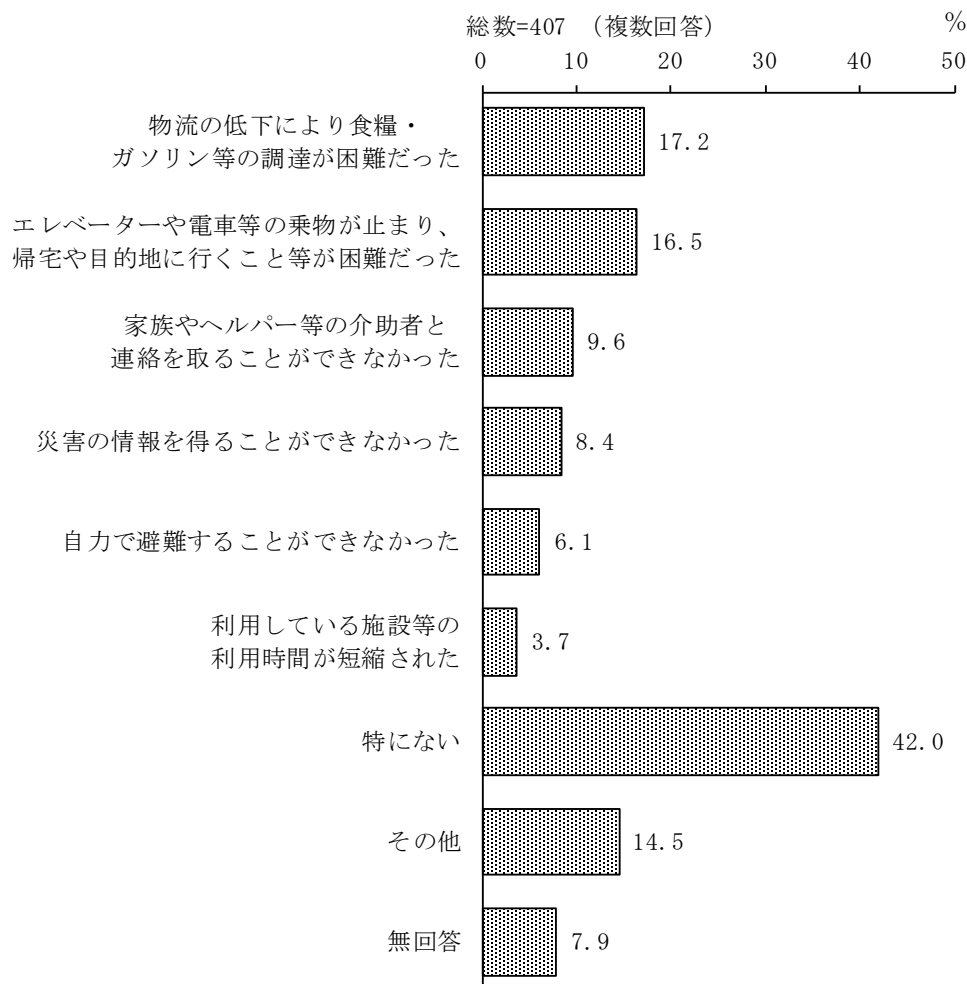
10. 災害対策・情報提供について

(1) 東日本大震災において困ったこと

問 33 東日本大震災（平成 23 年 3 月 11 日）において、あなたが困ったことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「物流の低下により食糧・ガソリン等の調達が困難だった」が 17.2%と最も多く、次いで「エレベーターや電車等の乗物が止まり、帰宅や目的地に行くこと等が困難だった」が 16.5%、「家族やヘルパー等の介助者と連絡を取ることができなかった」が 9.6%、「災害の情報を得ることができなかった」が 8.4%となっています。「その他」では、「病院に行けず、薬が入手できなくなった」、「精神疾患の症状が悪化した」などの回答がありました。

【問 33 東日本大震災において困ったこと】

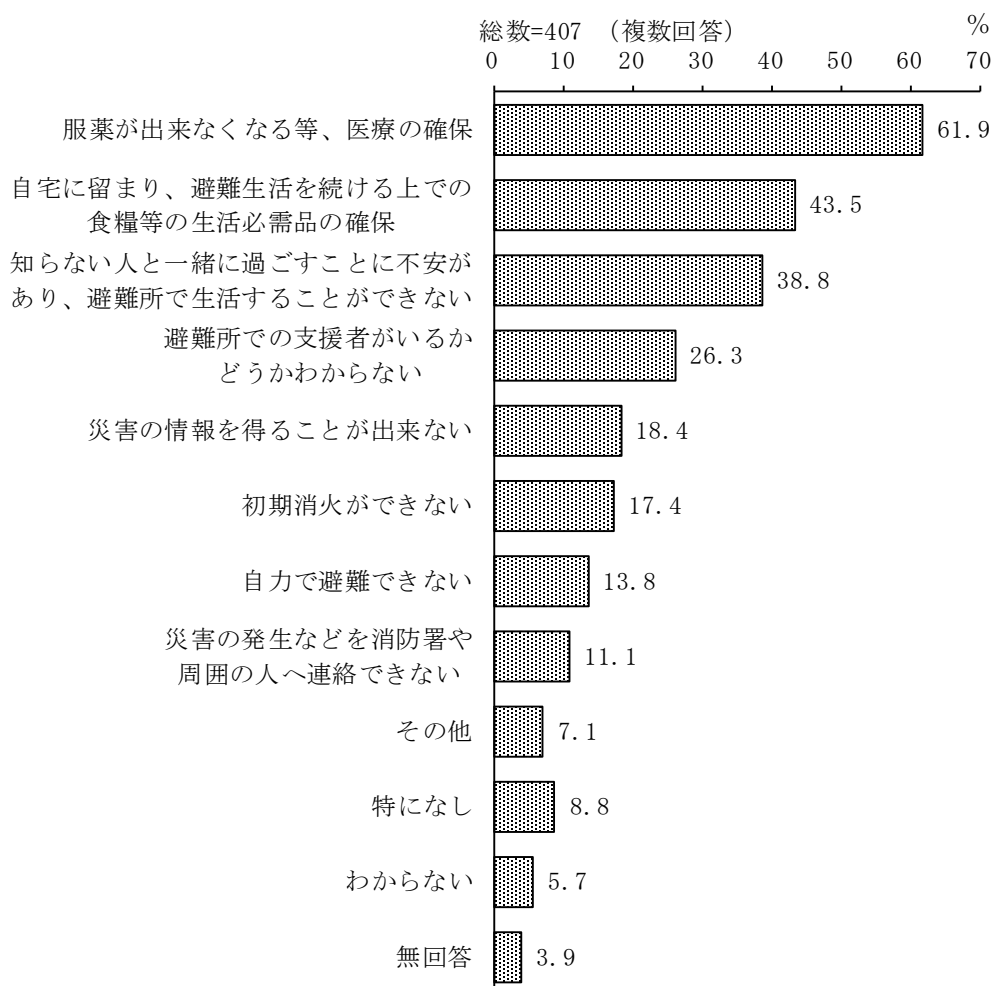


(2) 災害に関して不安に感じていること

問 34 地震や火事などの災害に関してあなたが不安に感じていることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「服薬が出来なくなる等、医療の確保」が 61.9%と最も多く、次いで「自宅に留まり、避難生活を続ける上での食糧等の生活必需品の確保」が 43.5%、「知らない人と一緒に過ごすことに不安があり、避難所で生活することができない」が 38.8%、「避難所での支援者がいるかどうか分からない」が 26.3%、「災害の情報を得ることが出来ない」が 18.4%となっています。

【問 34 災害に関して不安に感じていること】



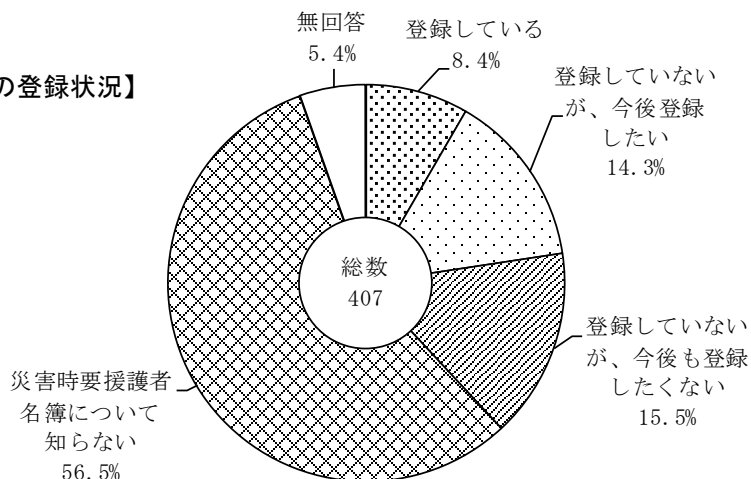
(3) 災害時要援護者名簿への登録状況

問 35-① 災害時要援護者名簿についてお聞きします。あなたは現在登録をしていますか。(1つに○)

「災害時要援護者名簿について知らない」が56.5%と最も多く、次いで「登録していないが、今後登録したい」が14.3%、「登録していないが、今後も登録したくない」が15.5%となっています。

【問 35-① 災害時要援護者名簿への登録状況】

※災害時要援護者名簿については
48 ページをご参照ください。

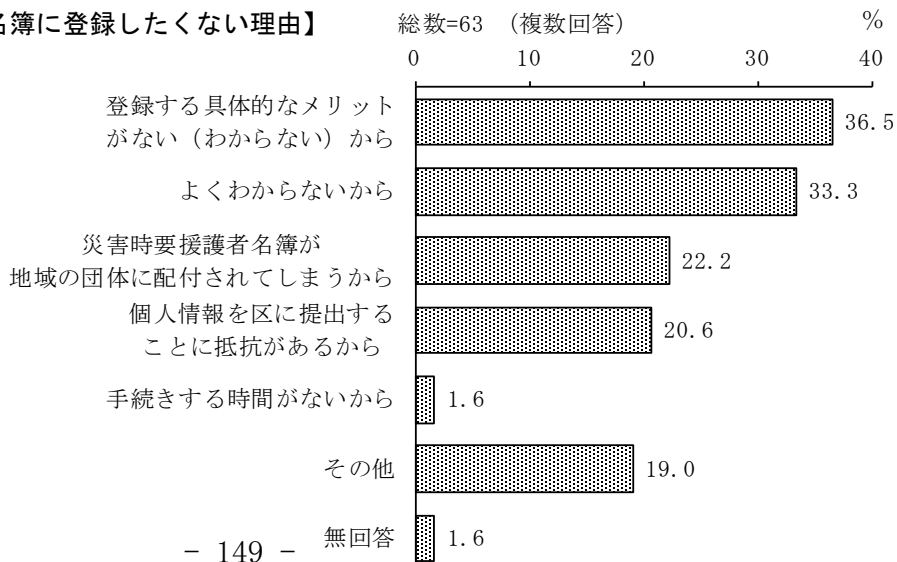


(4) 災害時要援護者名簿に登録したくない理由

問 35-② 問 35-①で「登録していないが、今後も登録したくない」と答えた方にお聞きします。その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「登録する具体的なメリットがない(わからない)から」が36.5%と最も多く、次いで「よくわからないから」が33.3%、「災害時要援護者名簿が地域の団体に配付されてしまうから」が22.2%、「個人情報を区に提出することに抵抗があるから」が20.6%となっています。「その他」では、「自力で避難できるから」などの回答がありました。

【問 35-② 災害時要援護者名簿に登録したくない理由】

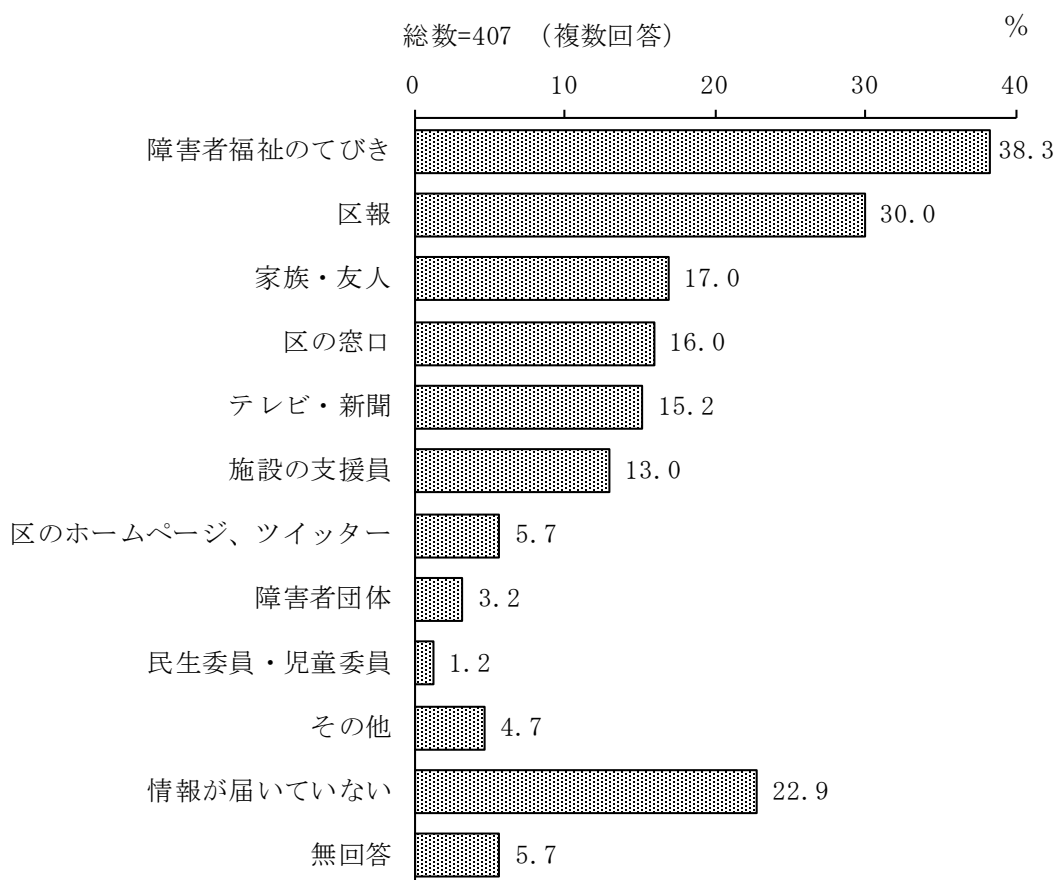


(5) サービスなどの情報源

問 36 区が実施している障害者に対するサービスなどの情報は、あなたに届いていますか。情報源となっているものをお選びください。(あてはまるものすべてに○)

「障害者福祉のてびき」が 38.3%と最も多く、次いで「区報」が 30.0%、「家族・友人」が 17.0%、「区の窓口」が 16.0%、「テレビ・新聞」が 15.2%となっています。「情報が届いていない」は 22.9%でした。

【問 36 サービスなどの情報源】

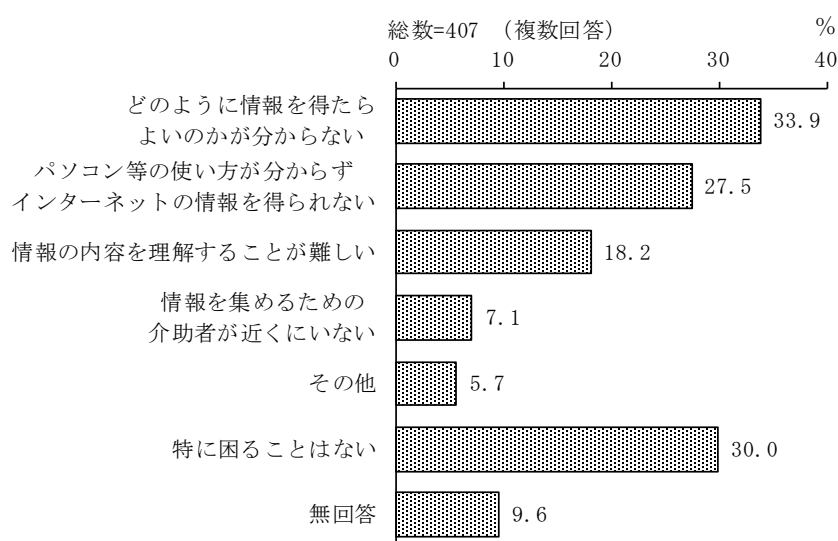


(6) 情報を得たいときに困ること

問 37 あなたが必要な情報を得たいときに、困ることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

「どのように情報を得たらよいか分からない」が33.9%と最も多く、次いで「パソコン等の使い方が分からずインターネットの情報を得られない」が27.5%、「情報の内容を理解することが難しい」が18.2%、「情報を集めるための介助者が近くにいない」が7.1%となっています。「特に困ることはない」は30.0%でした。

【問 37A 情報を得たいときに困ること】



「どのように情報を得たらよいか分からない」という回答の割合は男性より女性の方が多くなっています。

【問 37B 情報を得たいときに困ること (男女別)】

上段：実数 下段：割合		全体	パソコン等の使い方が分からずインターネットの	情報の内容を理解することが難しい	情報を集めるための介助者が近くにいない	分からないように情報を得られない	その他	特に困ることはない	無回答
全体		407	112	74	29	138	23	122	39
		100.0	27.5	18.2	7.1	33.9	5.7	30.0	9.6
性別	男	215	57	36	15	63	11	73	22
		100.0	26.5	16.7	7.0	29.3	5.1	34.0	10.2
	女	190	55	38	14	75	12	49	15
		100.0	28.9	20.0	7.4	39.5	6.3	25.8	7.9
無回答		2	-	-	-	-	-	-	2
		100.0	-	-	-	-	-	-	100.0

1 1. 生活のしづらさについて

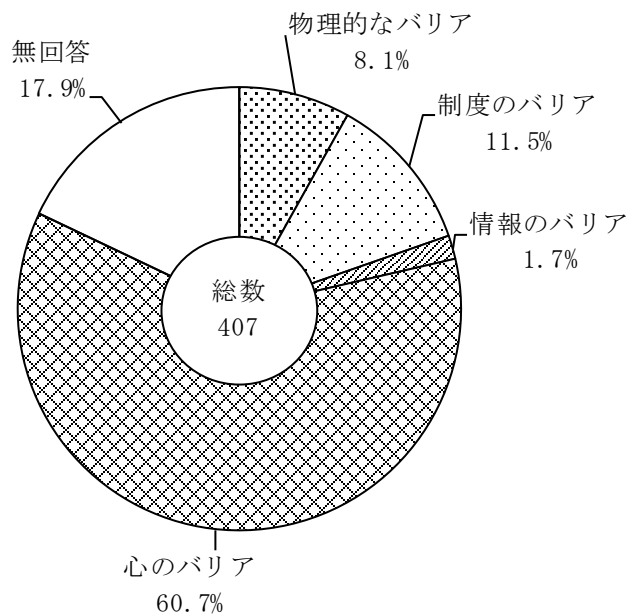
(1) 日々の生活の中で感じるバリアについて

問 38 日々の生活の中で感じる生活のしづらさについてお聞きします。
障害者が生活する中で不便と感じていることについて、以下の4つのバリア(=“不便なこと・困ること”)に分けられるとされています。日々の生活の中で、あなたはどのバリアを1番強く感じますか。いずれか1つ番号を選び、○をつけてください。

※ 4つのバリアについては、51 ページをご参照ください。

「心のバリア」が60.7%と最も多く、次いで「制度のバリア」が11.5%、「物理的なバリア」が8.1%となっています。

【問 38 日々の生活の中で感じるバリアについて】

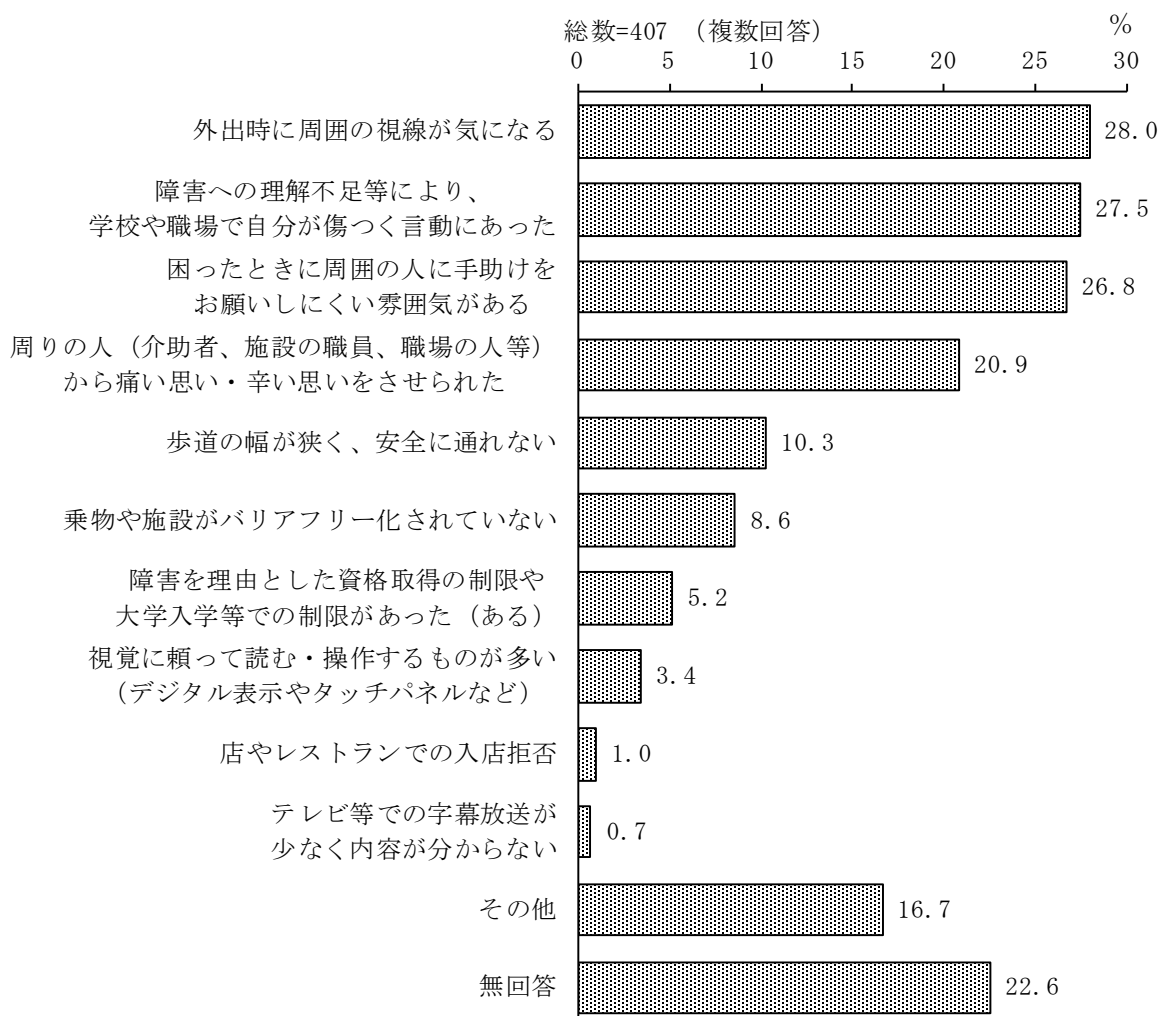


(2) 障害者に対する理解不足や生活のしづらさを感じる理由

問 39 どのような理由で障害者に対する理解不足や生活のしづらさを感じますか。
(あてはまるものすべてに○)

「外出時に周囲の視線が気になる」が28.0%と最も多く、次いで「障害への理解不足等により、学校や職場で自分が傷つく言動にあった」が27.5%、「困ったときに周囲の人に手助けをお願いしにくい雰囲気がある」が26.8%、「周りの人（介助者、施設の職員、職場の人等）から痛い思い・辛い思いをさせられた」が20.9%、「歩道の幅が狭く、安全に通れない」が10.3%となっています。「その他」では、「周囲の障害理解が不足している」、「特にない」などの回答がありました。

【問 39 障害者に対する理解不足や生活のしづらさを感じる理由】

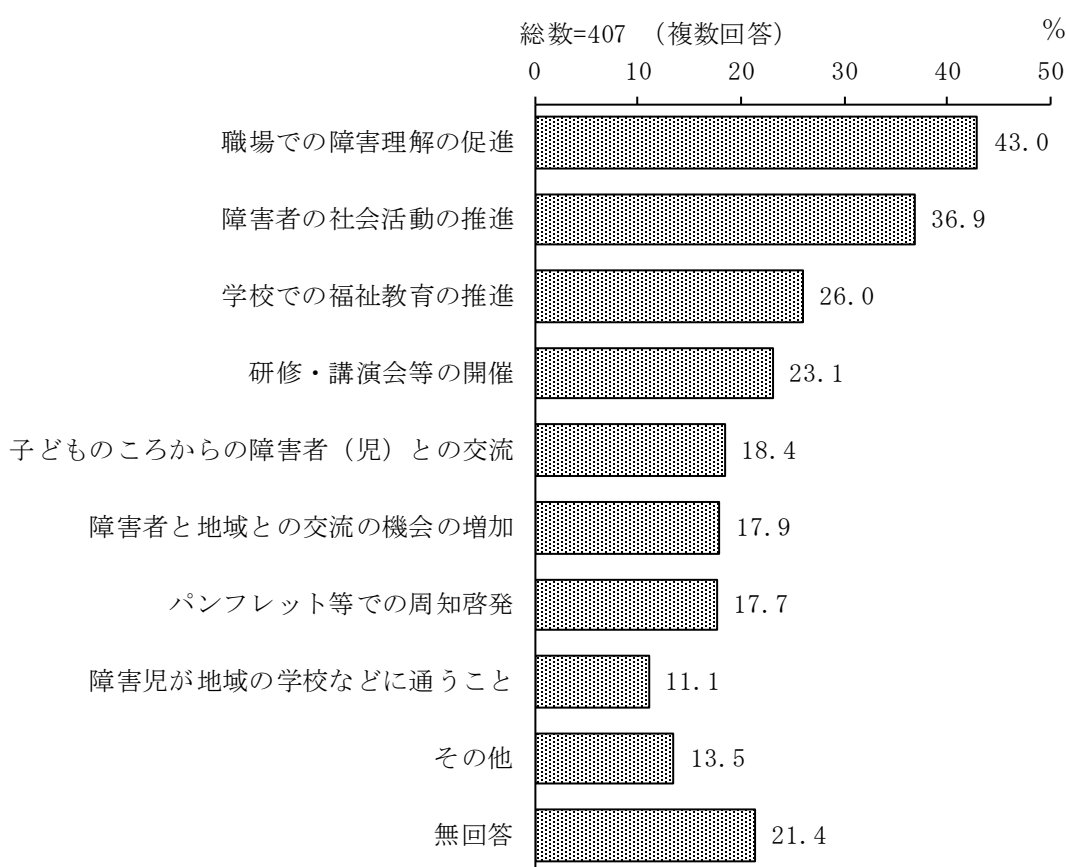


(3) 障害理解を進めていくために必要なこと

問 40 どのように障害理解を進めていくべきだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「職場での障害理解の促進」が43.0%と最も多く、次いで「障害者の社会活動の推進」が36.9%、「学校での福祉教育の推進」が26.0%、「研修・講演会等の開催」が23.1%、「子どもたちからの障害者（児）との交流」が18.4%となっています。「その他」では、「家族の理解を深めること」、「わからない」などの回答がありました。

【問 40 障害理解を進めていくために必要なこと】



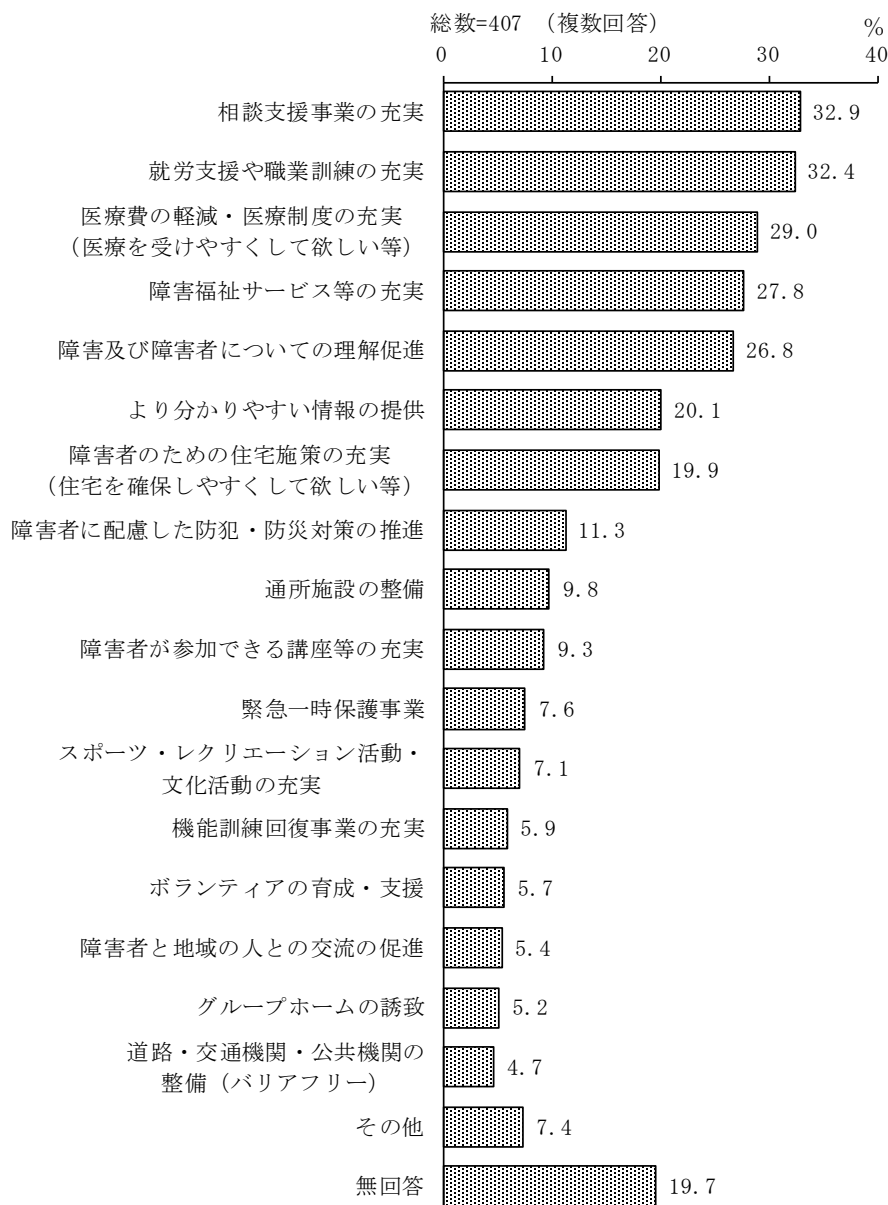
12. 要望事項

(1) 今後力を入れて欲しい施策や要望

問 41 今後力を入れて欲しい施策や要望をお答えください。(特にあてはまるものを5つまで○)

「相談支援事業の充実」が32.9%と最も多く、次いで「就労支援や職業訓練の充実」が32.4%、「医療費の軽減・医療制度の充実（医療を受けやすくして欲しい等）」が29.0%、「障害福祉サービス等の充実」が27.8%、「障害及び障害者についての理解促進」が26.8%となっています。

【問 41A 今後力を入れて欲しい施策や要望】



「就労支援や職業訓練の充実」という回答の割合は家族と同居している方で多く、「障害者のための住宅施策の充実（住宅を確保しやすくして欲しい等）」という回答の割合は一人暮らしの方で多くなっています。

【問 41B 今後力を入れて欲しい施策や要望（家族構成別）】

上段：実数 下段：割合		全体	相談支援事業の充実	障害福祉サービス等の充実	通所施設の整備	グループホームの誘致	就労支援や職業訓練の充実	機能訓練回復事業の充実	緊急一時保護事業	して欲しい等 （住宅を確保しやすく したい等）	して欲しい等 （医療費の軽減・医療制度の充実 を受けやすく したい等）
全体		407 100.0	134 32.9	113 27.8	40 9.8	21 5.2	132 32.4	24 5.9	31 7.6	81 19.9	118 29.0
家族構成	家族と同居	251 100.0	86 34.3	70 27.9	26 10.4	8 3.2	93 37.1	13 5.2	18 7.2	33 13.1	79 31.5
	一人暮らし	122 100.0	39 32.0	36 29.5	11 9.0	8 6.6	27 22.1	8 6.6	11 9.0	41 33.6	27 22.1
	その他	29 100.0	9 31.0	5 17.2	3 10.3	5 17.2	11 37.9	3 10.3	2 6.9	7 24.1	10 34.5
	無回答	5 100.0	-	2 40.0	-	-	1 20.0	-	-	-	2 40.0

上段：実数 下段：割合		整備（道路・交通機関・公共機関の バリアフリー）	より分かりやすい情報の提供	講座等が参加できる 障害者の充実	ついでに理解促進に 障害者及び障害者に	交流の促進と地域の人の 障害者との	活動・スポーツ・文化活動の 充実	ボランティアの育成・支援	防犯・防災対策の推進 に配慮した 推進	その他	無回答
全体		19 4.7	82 20.1	38 9.3	109 26.8	22 5.4	29 7.1	23 5.7	46 11.3	30 7.4	80 19.7
家族構成	家族と同居	12 4.8	61 24.3	27 10.8	72 28.7	12 4.8	19 7.6	14 5.6	28 11.2	17 6.8	48 19.1
	一人暮らし	5 4.1	17 13.9	9 7.4	31 25.4	7 5.7	8 6.6	7 5.7	17 13.9	9 7.4	23 18.9
	その他	2 6.9	3 10.3	2 6.9	6 20.7	3 10.3	2 6.9	2 6.9	1 3.4	4 13.8	7 24.1
	無回答	-	1 20.0	-	-	-	-	-	-	-	2 40.0

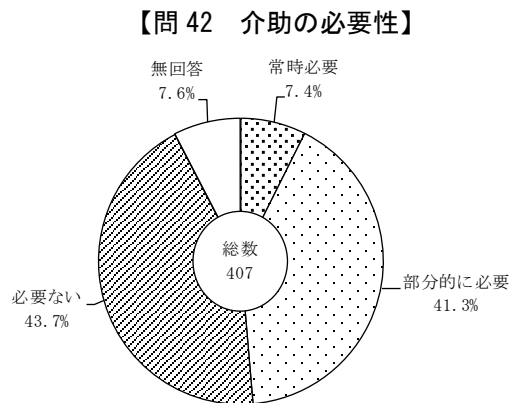
13. 介助の状況について

※以下介助とは、障害者への介助、支援、見守りなどを含みます。

(1) 介助の必要性

問 42 あなたは介助を必要としていますか。(1つに○)

「必要ない」が43.7%と最も多く、次いで「部分的に必要」が41.3%、「常時必要」が7.4%となっています。



【ここから問 44 までの設問は、介助をしている家族・親族の方に伺いました】

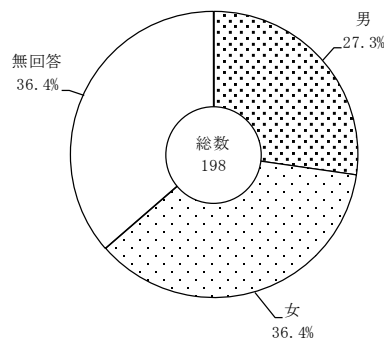
(2) 主な介助者の性別・年齢

問 43 主に介助をしている方の性別と年齢を記入してください。

① 主な介助者の性別

「女」が36.4%、「男」が27.3%となっています。

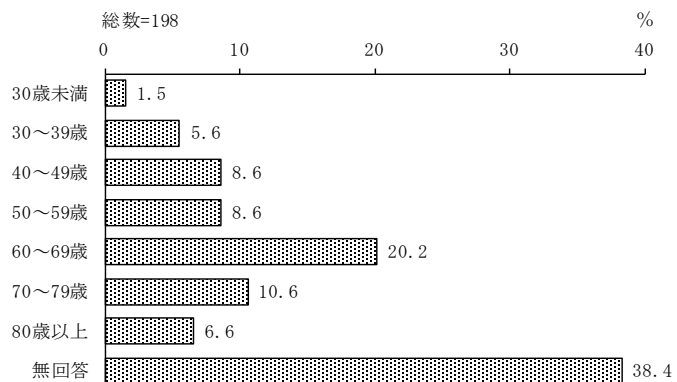
【問 43① 主な介助者の性別】



② 主な介助者の年齢

「60～69歳」が20.2%と最も多く、次いで「70～79歳」が10.6%、「40～49歳」と「50～59歳」がそれぞれ8.6%となっています。

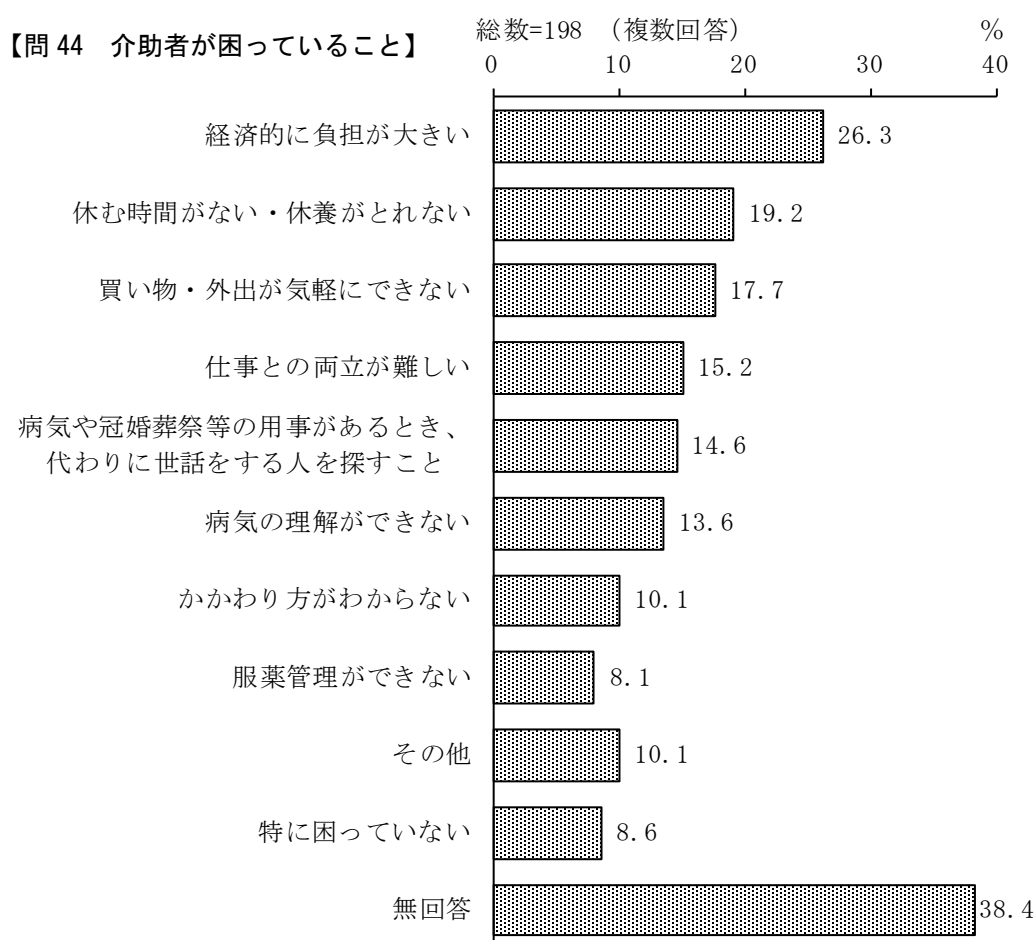
【問 43② 主な介助者の年齢】



(3) 介助者が困っていること

問 44 主に介助をしている方がお困りのことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「経済的に負担が大きい」が26.3%と最も多く、次いで「休む時間がない・休養がとれない」が19.2%、「買い物・外出が気軽にできない」が17.7%、「仕事との両立が難しい」が15.2%、「病気や冠婚葬祭等の用事があるとき、代わりに世話をする人を探すこと」が14.6%となっています。「その他」では、「介助者が高齢化している」などの回答がありました。



14. 自由意見

問 45 この調査を通じて選択肢やその他の欄等だけでは表現しきれなかったこと、ご意見などがありましたら、自由にお書きください。

自由意見は151件ありました。「福祉」についての意見が34.4%と最も多く、次いで「障害・疾患」と「障害理解」がそれぞれ26.5%、「雇用・就労」が21.9%、「行政」が19.9%となっています。

【問 45 自由意見】

上段：実数 下段：割合	総数	福祉	障害・疾患	障害理解	雇用・就労	行政	保健・医療	情報・相談	生活環境	将来	教育・療育	その他
自由意見	151 100.0	52 34.4	40 26.5	40 26.5	33 21.9	30 19.9	21 13.9	20 13.2	13 8.6	11 7.3	3 2.0	38 25.2

◆主な意見（内容は要約・省略しています）

①福祉

「障害福祉サービス等（とくに居住系サービス）を今後充実してほしい。」（40代／男性／統合失調症、気分障害、発達障害）

「支援して下さるケアサービスの会社が人手不足のところが多く、ヘルパーさんも高齢の方が多く、支援して下さる業者さんをなかなか見つけることがむずかしい。どうか区で通院の介助や援助支援をやって下さるところを増やして下さいようお願い申し上げたい。」（50代／女性／不安障害・強迫性障害・適応障害）

「仕事をしているので、支援センターが夜9時までやっているか、土曜日やっているかと相談に行きやすいです。グループホームをもっと建ててほしいです。」（40代／女性／統合失調症）

「まだ障害者手帳をいただいてから日が浅く、サービスの種類や名称があれこれと似ていて、よくわかりません。症状によって道筋ができているとスムーズに必要な窓口へアクセスできるのかと思いました。」（20代／女性／不安障害・強迫性障害・適応障害、発達障害）

②障害・疾患

「体調（気分）のムラを人に理解してもらえない。電話に出られない。着替えられない。出かけられないなど。変人とかわがままと思われてしまう。そのことが又、心の低下につながる。」（50代／女性／気分障害、不安障害・強迫性障害・適応障害）

「アスペルガーは見た目は普通に見えます。しかし人とのかかわり方、感情のやり取りなど、本人は1つ1つ学んでいくしかなく、大変な思いをします。作業所に通った事で、本当に1歩ずつですが成長しているのがわかります。」(20代/男性/その他)

「発達障害で学童の頃より人間関係で苦しみ、成人してから、幼い頃の経験がトラウマになり、この社会で生きていくことは大変かと思います。未だ、自分の障害について受容をできないため、多くの困難に遭遇した時、傷つくこともあります。年を重ね経験を通し、柔軟に対応するテクニックも身につけてきています。」(20代/男性/発達障害)

③障害理解

「私は精神障害者です。外見から障害があるか分からず、つらい思いをしがちです。例えばバスや電車内などの優先席に障害者マークなどを身につけていれば、安心して座れる事ができれば嬉しいです。身体障害者ではなく精神的に辛い時には、歩行も困難になる事が多いので、バスや電車で座れたら、いいなと思います。」(30代/女性/気分障害)

「うつ病というものへの認知は高まっていますが、実際に『うつ病から社会復帰しようとしている人』にどう対応したらよいのか、という点ではまだ理解が進んでいないように思います。」(30代/女性/気分障害)

「妊産婦にバッジが出来たように、自閉的な子ども達のためにも世の中に通じるマークがあったらいいと思います。まずは、周囲の人々に障害者の存在を知ってもらう事が将来的には支援の輪が広がっていく事と思います。車イスのマークのようにハートマークのような、精神面でのマークがほしいです。」(10代/男性/発達障害)

④雇用・就労

「文京区として、障害者(精神・発達)の就労を考えてほしい。インターンシップに障害学生枠を設けてほしい。」(20代/男性/発達障害)

「芸術や情報コンテンツのクリエイターが集まれるPC端末が利用可能な集いの場とハイレベルなスタッフ体制があれば、精神障害者でも得意分野を活かして、広告収入を見込めるレベルの仕事ができるのかもしれない。」(30代/男性/統合失調症、気分障害、発達障害)

「現在障害者雇用のアルバイトをしているが、最大でも3年で契約がきれることになっている。それが不安だ。通勤や仕事の内容は自分としては好条件だが、収入の少なさがネックで、将来安心してくらすには足りない。次の仕事が見つかるかまったくわからない。非正規雇用でも長く勤められる環境がほしい。」(20代/男性/発達障害)

「作業所で働いてもほとんどお金はもらえません。お金がないと日々の生活に困ります。安心して生活ができるように、賃金が少ない雇用、働けない状態の人には障害年金をだして下さい。毎日の生活が安定していないので働くのもむずかしいです。」(20代/女性/統合失調症)

「双極性Ⅱ型です。躁とウツの波が激しいため、継続した就労ができず、退職をくり返し

ています。その為履歴書には退職回数がどんどん増えていき、回を重ねるごとに就職しづらくなっています。」(30代/女性/気分障害)

⑤行政

「一年で直る病気ではないので、一年毎に自立支援医療費の更新手続きをしないと行かないのは、変だと思います。しかも、こっちから窓口へ行かないと行かないのも変だと思います。精神病障害の障害者手帳も二年に一度更新しないと行かないのも、他の障害の人達は、一生使えるのに、不公平だと思います。」(40代/女性/統合失調症、気分障害)

「区役所の方がいつも優しくお話を聞いてくれるので、安心して質問が出来たり、話しやすいです。ありがとうございます。」(20代/女性/気分障害、不安障害・強迫性障害・適応障害)

「文京区は区役所の対応も今はすこしは良くなっているが、福祉は箱物を作るだけで中味がともなっていない。私もいち納税者として無駄なお金の使い方をしないでほしいと思う。」(50代/女性/統合失調症)

⑥保健・医療

「精神科病院は日曜、祝日に作業が多く、病状の急変に対応するのが困難であり非常に困っています。」(40代/男性/依存症、発達障害)

「本人の病状は悪く長期の入院を必要としている。しかし病院は長期入院を認めず(3か月以上の入院を認めない)、かと言って父母(80才を越えている)のもとで療養することは不可能であり、療養に行きづまっている。」(40代/男性/統合失調症)

⑦情報・相談

「相談事業の担当員はできるだけベテランの方を配置して欲しい。他の機関を紹介するだけでなく、最後まで責任を持って対応していただきたい(定期的なカウンセリング、お便り、メルマガ等による情報提供など)。」(20代/男性/発達障害)

「私は、この先どうやって生きていくのかわかりません。すごい不安になります。そんな時に相談できる人がいてくれたらいいなと思います。」(40代/女性/統合失調症)

「相談窓口が区・社協・その他とバラバラで困ります。まず第一に相談を受け付けて、後で然るべき部署等を紹介してくれる総合窓口が欲しいです。」(40代/男性/気分障害)

「どこにどんな情報があるかわからない。情報をえるための人とかかわりがない。情報難民です。情報がたりない。情報をもっている人とかかわりたい」(50代/男性/統合失調症)

⑧生活環境

「住宅の老朽化で、本当に悩んでいます。今まで家のドアを修理していただいたり、水道の蛇口・水回りを少しなおしていただいたりしましたが、今、家全体の木の部分が腐りは

じめており、障子の枠をはずして対応しています。他の所も沢山ありますが、今後どうしたらよいかと考えています。」(40代/女性/気分障害)

「現在借家住まいしていますが、家賃が高いが、患者本人の事を考えると、住居をかえると、精神的負担が大きくなり、病状の悪化を招く恐れがある(医師助言)。」(60代/女性/統合失調症)

⑨将来

「毎日のように病気に対し、悪化していくのではないかと不安が非常に大きい。就業しなければならないのに、いつ治るかがわからないので、慣らしていくにはどうしたらいいか、自分の相談相手がなかなかいなくて困っている。」(40代/女性/統合失調症、気分障害、不安障害・強迫性障害・適応障害)

「この先親が亡くなったらどうして良いかが心配です。兄弟と一緒に生活していないので今の状態がわかってないので困っております。一緒に生活は無理だと思います。この病気は理解出来ないと思います。親が亡くなった後、どうしたら良いか悩むところです。」(40代/男性/統合失調症)

⑩その他

「今、ちょっと恋愛とか結婚の事で悩んでいます。発達障害のせいであまり異性(私を障がい者とは知らない)とのコミュニケーションを取ることが難しく、なかなか良い出会いもありません。障がい者のための婚活サービスや、そういった種類の相談が出来る窓口なども設けて欲しいと思いました。」(30代/女性/発達障害)